

# 2026年3月期 第2四半期 決算説明資料

---

2025年11月6日



ダイワホールディングス株式会社

(証券コード：3107)

<b>1. 2026年3月期 第2四半期決算（中間期）</b>	<i>_P 2</i>
<b>2. ITインフラ流通事業</b>	<i>_P12</i>
<b>3. 産業機械事業</b>	<i>_P20</i>
<b>4. 2026年3月期 業績見通し</b>	<i>_P23</i>
<b>5. 株主還元</b>	<i>_P28</i>
<b>【参考資料】</b>	<i>_P31</i>
▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）	
▶ 事業概要	
▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について	
▶ 業績推移グラフ	

# | 2026年3月期 第2四半期決算（中間期）

## 2026年3月期 第2四半期 (2025年4月1日～2025年9月30日)

売上伸長と収益性維持によって上期で初の営業利益200億円超え  
下期も好調に推移する見通しから業績予想を上方修正

### ITインフラ 流通事業

- ▶ Windows10サポート終了を直前にした中堅・中小企業によるPC更新需要、また本格化したGIGAスクール第2期の納入が全体を牽引し売上高と営業利益を押し上げ
- ▶ iKAZUCHI(雷) は1Qに続いてPC更新時のクロスセル提案が奏功し、実績を積み上げ
- ▶ 1Qから売上総利益率が低下した一方、販管費率の減少によって収益性を維持

### 産業機械事業

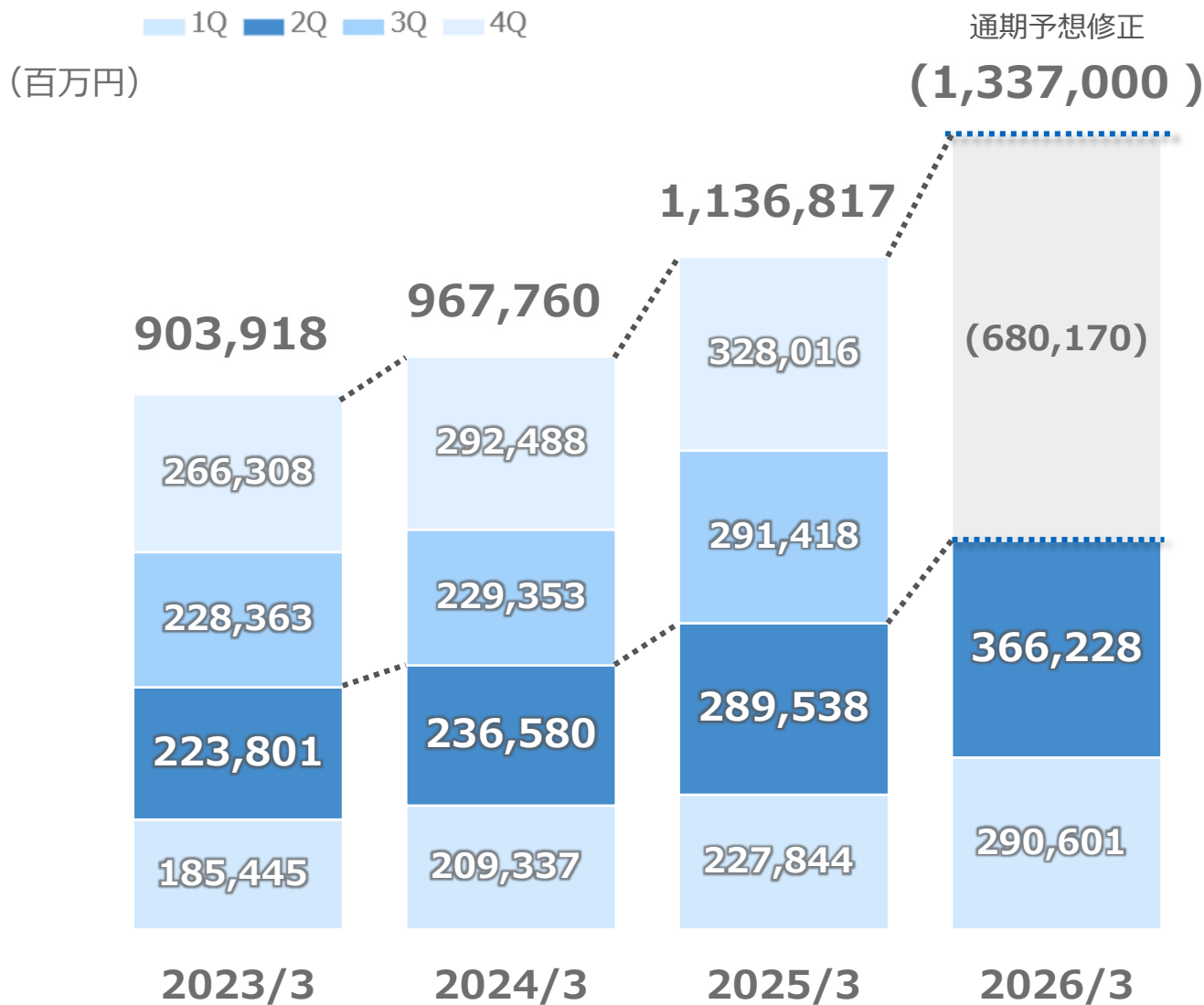
- ▶ 工作機械部門では主力の航空機業界を中心に国内受注が回復傾向。今後の需要に備えた在庫拡充やサービス体制を強化
- ▶ 1Qに続き工作機械・自動機械両部門におけるサービス売上の他、自動機械部門における本体販売台数の増加が実績に寄与

### 業績予想修正

- ▶ 下期も企業向けのIT需要が堅調、またGIGAスクール第2期による更新需要も引き続き好調に推移する見通しのため、下期および通期の業績予想を上方修正



# 2026年3月期 第2四半期 売上高 (4~9月)



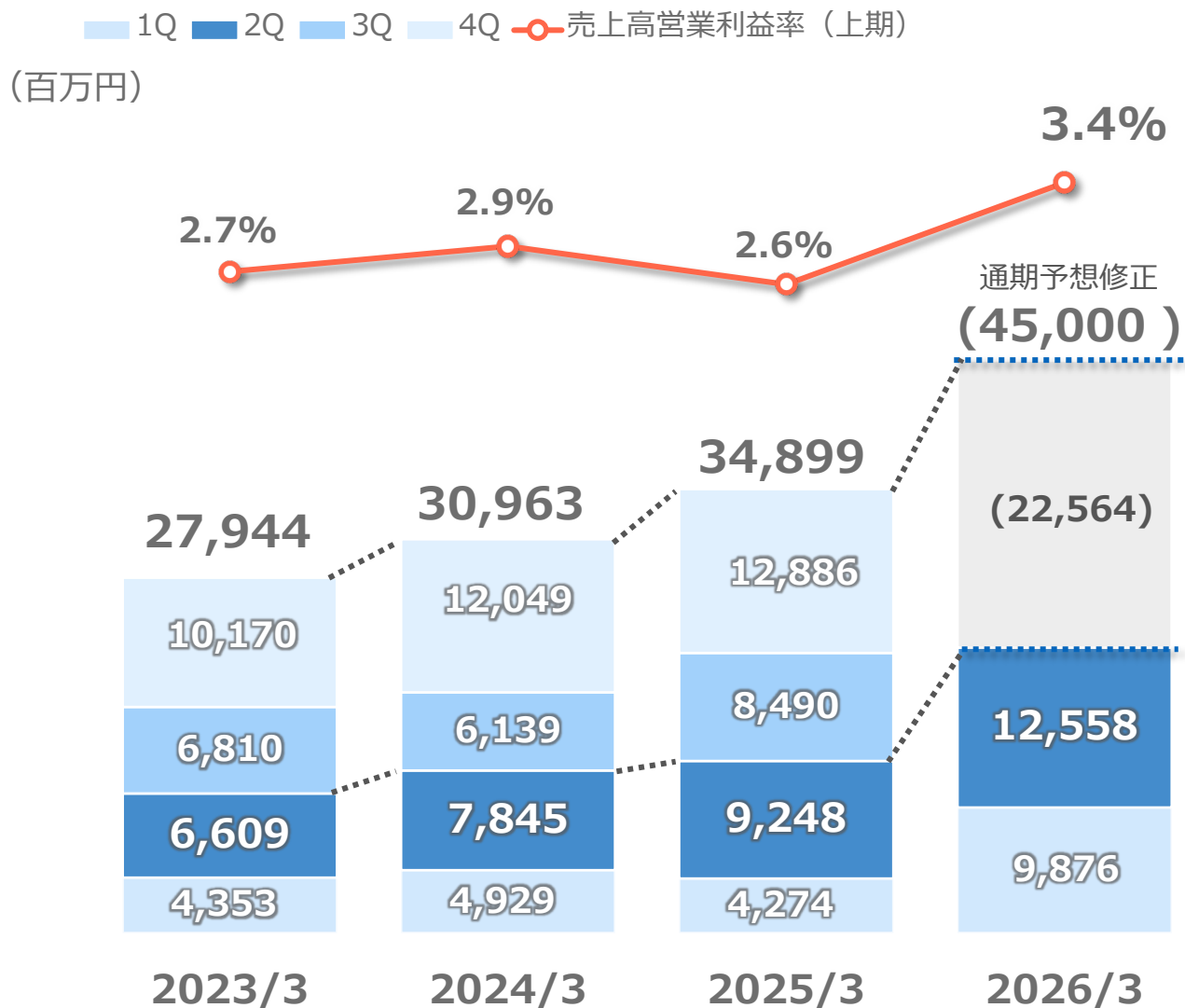
売上高 **656,830**百万円

前年同期比 + **27.0%**

通期進捗率 **49.1%**

上期として  
最高売上高を更新

# 2026年3月期 第2四半期 営業利益 (4~9月)



営業利益 **22,435**百万円

前年同期比 + **65.9%**

営業利益率 **3.4%**

通期進捗率 **49.9%**

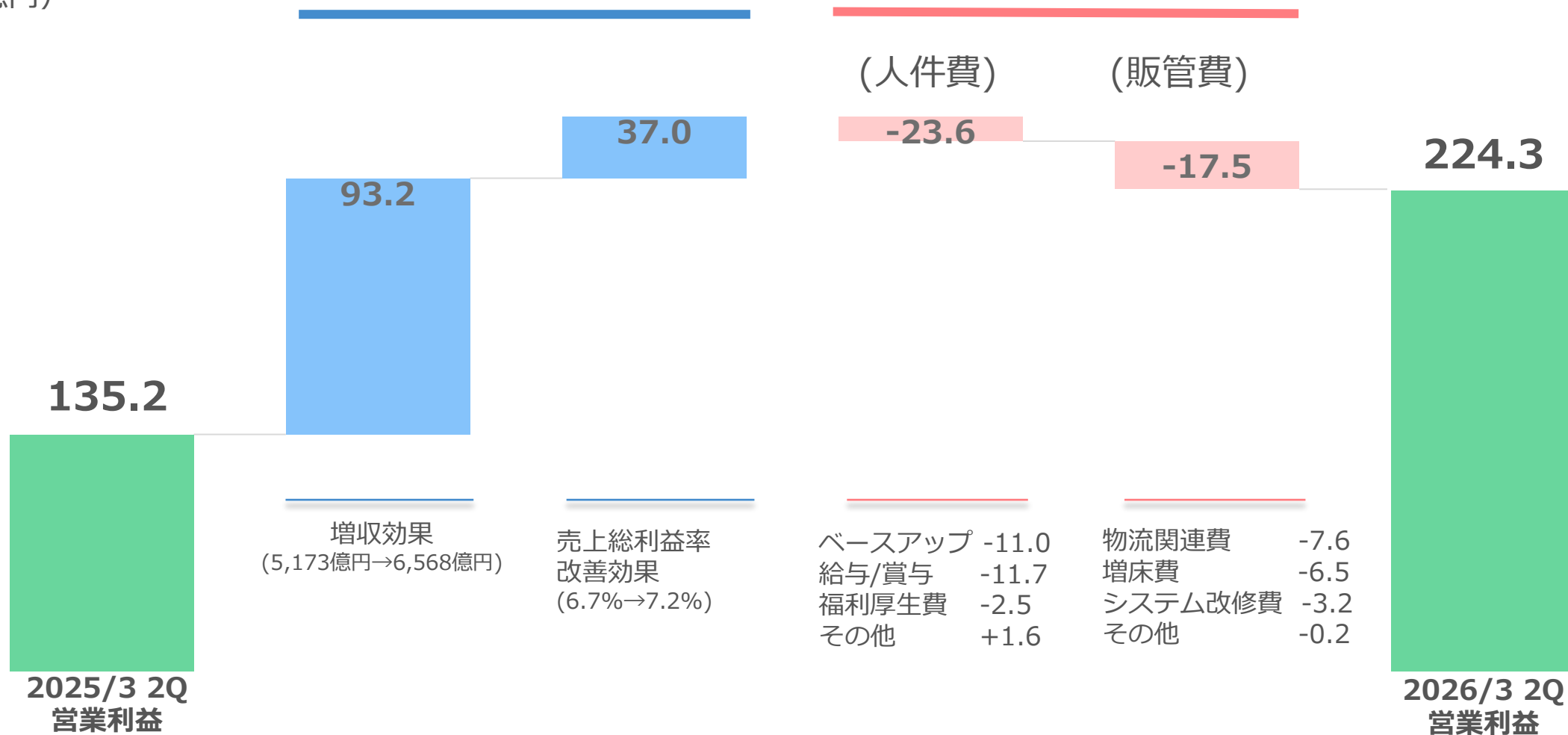
**上期として  
最高営業利益を更新**

# 営業利益 第2四半期実績推移

(億円)

## 売上総利益

## 販売費及び一般管理費



1Qに続き売上高伸長と売上総利益率改善が販管費の増加を上回り、2Qとして過去最高の営業利益を更新

# 2026年3月期 第2四半期 連結決算概況（4～9月）

(百万円)	2025/3 2Q	2026/3 2Q	増減	前年同期比	修正後 通期予想	進捗率
売上高	517,383	<b>656,830</b>	+139,447	+27.0%	1,337,000	49.1%
営業利益	13,522	<b>22,435</b>	+8,912	+65.9%	45,000	49.9%
経常利益	13,839	<b>22,608</b>	+8,768	+63.4%	45,300	49.9%
親会社株主に帰属する 中間純利益	9,474	<b>15,736</b>	+6,262	+66.1%	30,800	51.1%
1株当たり 中間純利益 (円)	102.52	<b>176.04</b>	+73.52			

(百万円)	2025/3	2025/9	増減	主な増減理由
総資産	440,122	<b>454,664</b>	+14,542	商品及び製品在庫の増加
純資産	152,310	<b>161,224</b>	+8,913	利益剰余金の増加
自己資本比率	34.6%	<b>35.5%</b>		

# 2026年3月期 第2四半期 セグメント別業績 (4~9月)

(百万円)		2025/3 2Q	2026/3 2Q	増減	前年同期比
売上高	ITインフラ流通	511,053	<b>649,692</b>	+138,639	+27.1%
	産業機械	6,329	<b>7,137</b>	+808	+12.8%
	合計	517,383	<b>656,830</b>	+139,447	+27.0%
営業利益	ITインフラ流通	13,170	<b>21,843</b>	+8,673	+65.9%
	産業機械	348	<b>585</b>	+237	+68.2%
	(調整額)	4	5	+1	+38.9%
	合計	13,522	<b>22,435</b>	+8,912	+65.9%

売上高

両セグメントとも販売実績の伸長による増収

営業利益

ITインフラ流通事業の販管費率の減少、また産業機械事業における増収効果、収益性の高いサービス売上伸長による増益

# 2026年3月期 第2四半期 連結貸借対照表 (決算短信P3-4)

(百万円)	2025/3	2025/9	増減		2025/3	2025/9	増減
<b>流動資産</b>	407,778	<b>419,763</b>	+11,985	<b>流動負債</b>	267,779	<b>278,668</b>	+10,889
現金及び預金	55,421	<b>50,008</b>	△5,412	支払手形及び買掛金	228,422	<b>236,515</b>	+8,092
受取手形及び売掛金	288,495	<b>274,546</b>	△13,949	短期借入金	8,904	<b>12,904</b>	+4,000
商品及び製品	45,495	<b>71,351</b>	+25,856	<b>固定負債</b>	20,032	<b>14,772</b>	△5,260
<b>有形固定資産</b>	11,252	<b>12,214</b>	+962	長期借入金	11,799	<b>7,532</b>	△4,267
<b>無形固定資産</b>	4,973	<b>6,002</b>	+1,029	<b>負債合計</b>	287,811	<b>293,440</b>	+5,628
<b>投資その他の資産</b>	16,117	<b>16,683</b>	+565	<b>純資産合計</b>	152,310	<b>161,224</b>	+8,913
				自己株式	△15,088	△ <b>18,469</b>	△3,380
<b>資産合計</b>	440,122	<b>454,664</b>	+14,542	<b>負債純資産合計</b>	440,122	<b>454,664</b>	+14,542

商品及び製品	45,495	→	<b>71,351</b>	+25,856	製品在庫の増加
受取手形及び売掛金	288,495	→	<b>274,546</b>	△13,949	DISの売上債権の回収
支払手形及び買掛金	228,422	→	<b>236,515</b>	+8,092	DISの仕入債務の増加

# 2026年3月期 第2四半期 連結損益計算書 (決算短信P5)

(百万円)	2025/3 2Q		2026/3 2Q		増減	前年同期比
	実績	率	実績	率		
<b>売上高</b>	517,383		<b>656,830</b>		+139,447	+27.0%
売上総利益	34,560	6.7%	<b>47,579</b>	<b>7.2%</b>	+13,019	+37.7%
販売費及び一般管理費	21,038	4.1%	<b>25,144</b>	<b>3.8%</b>	+4,106	+19.5%
<b>営業利益</b>	13,522	2.6%	<b>22,435</b>	<b>3.4%</b>	+8,912	+65.9%
<b>経常利益</b>	13,839	2.7%	<b>22,608</b>	<b>3.4%</b>	+8,768	+63.4%
特別利益	-		<b>270</b>		+270	
特別損失	1		-		△1	
<b>親会社株主に帰属する 中間純利益</b>	9,474	1.8%	<b>15,736</b>	<b>2.4%</b>	+6,262	+66.1%

特別利益

蘇州大和針織服装有限公司の清算終了に伴う清算益

# 2026年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2025/3 2Q	2026/3 2Q	増減	前年同期比
	実績	実績		
営業活動によるキャッシュ・フロー合計	4,871	<b>6,512</b>	+1,641	+33.7%
投資活動によるキャッシュ・フロー合計	△1,157	<b>△4,795</b>	△3,638	-
財務活動によるキャッシュ・フロー合計	△10,157	<b>△8,000</b>	+2,156	△21.2%
現金及び現金同等物期首残高	69,172	<b>55,221</b>	△13,951	△20.2%
現金及び現金同等物期末残高	62,976	<b>48,808</b>	△14,167	△22.5%

※11月6日時点で監査レビュー中のため、暫定の数値となります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の減少と仕入債務の増加等

投資活動によるキャッシュ・フロー

DISのシステム構築による支出等

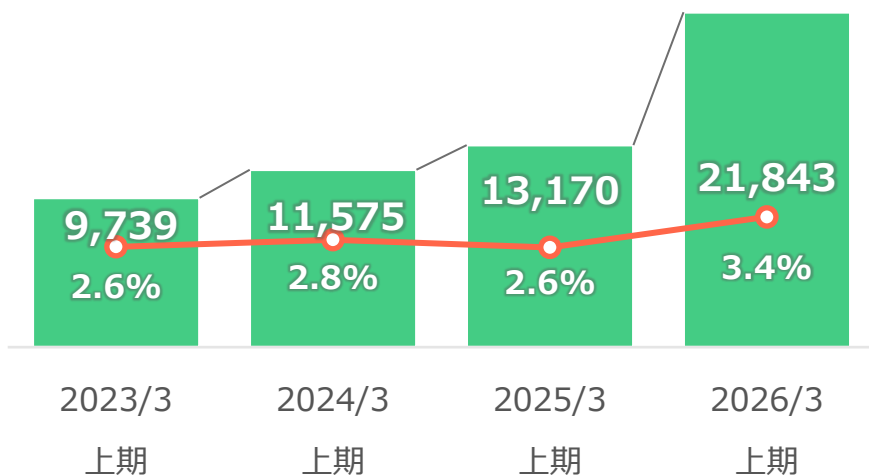
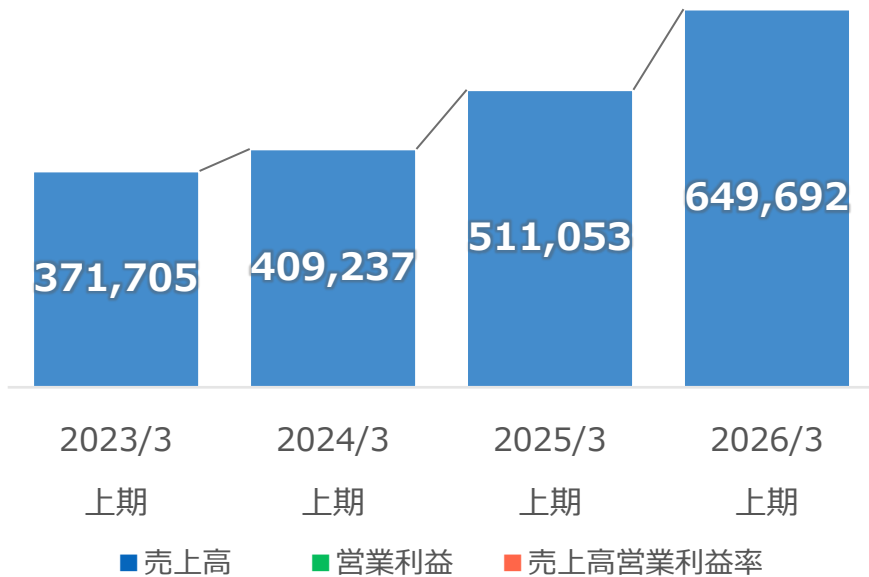
財務活動によるキャッシュ・フロー

自己株式取得による支出の減少等



# | ITインフラ流通事業

(百万円)



取扱高 ※旧基準売上高 **692,721**百万円 (前年同期比+**25.6%**)

売上高 **649,692**百万円 (前年同期比+**27.1%**)

営業利益 **21,843**百万円 (前年同期比+**65.9%**)

PC出荷台数 **311.2**万台 (前年同期比+**80.7%**)

サーバー出荷台数 **2.7**万台 (前年同期比△**3.4%**)

iKAZUCHI(雷)取扱高 **26,149**百万円 (前年同期比+**37.2%**)

## 事業概況

### コーポレート向け市場

- 企業向けは、全国の営業拠点網を活かし、Windows10サポート終了に向けた中堅・中小企業によるPC更新需要を着実に取り込む
- 文教向けは、GIGAスクール第2期の2025年度導入分の納入が本格化。現在は来年度の入札に向けて情報を精査中
- 官公庁・自治体向けは、前年同期の大型IT整備案件増から今期は地方公共中規模案件の増加が目立った

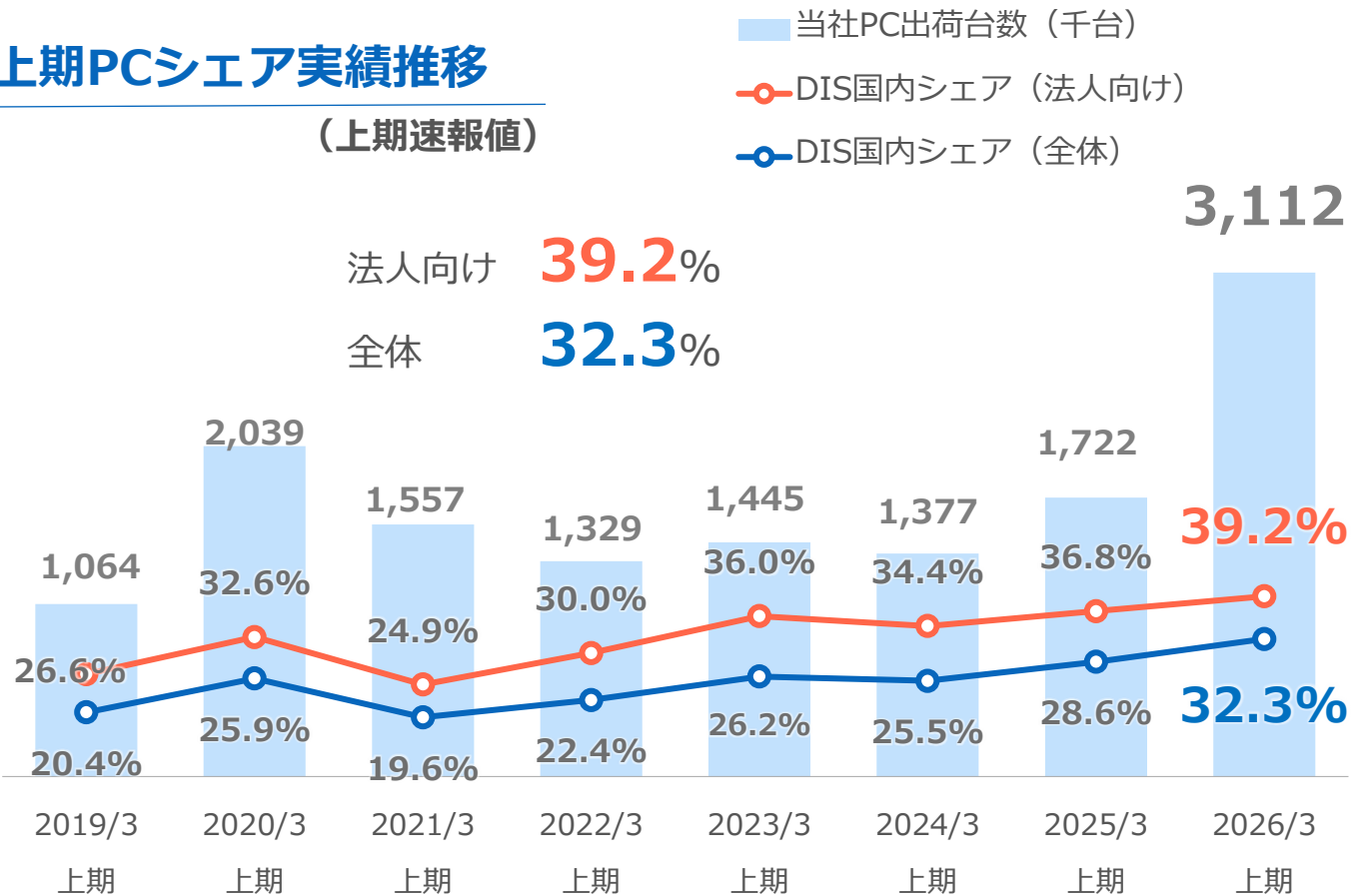
### コンシューマ向け市場

- 1Qに続き量販店向けのWindowsサポート終了に伴うPC更新需要が牽引し、コンシューマ全体で前年同期の売上高を上回る

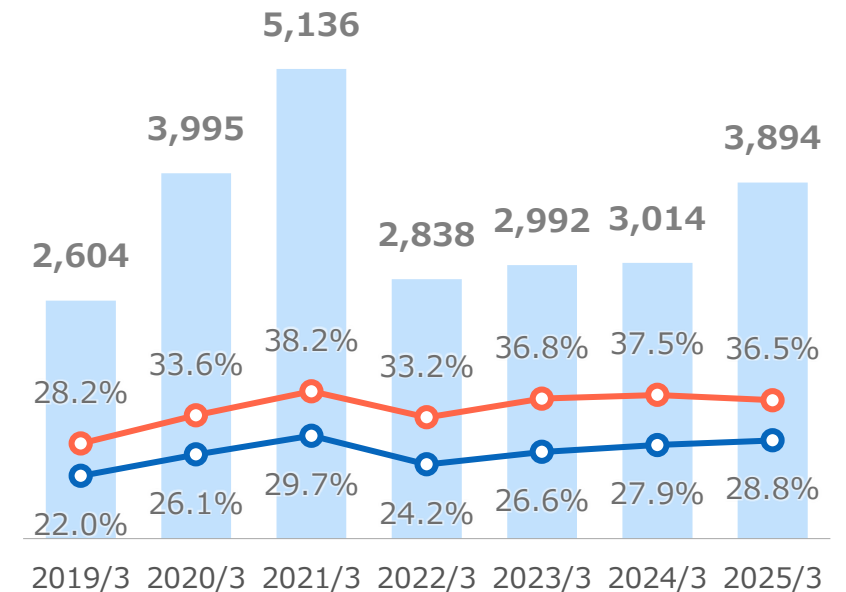
## 国内のPC3台に1台当社が関与

### 上期PCシェア実績推移

(上期速報値)



### 通期PCシェア推移



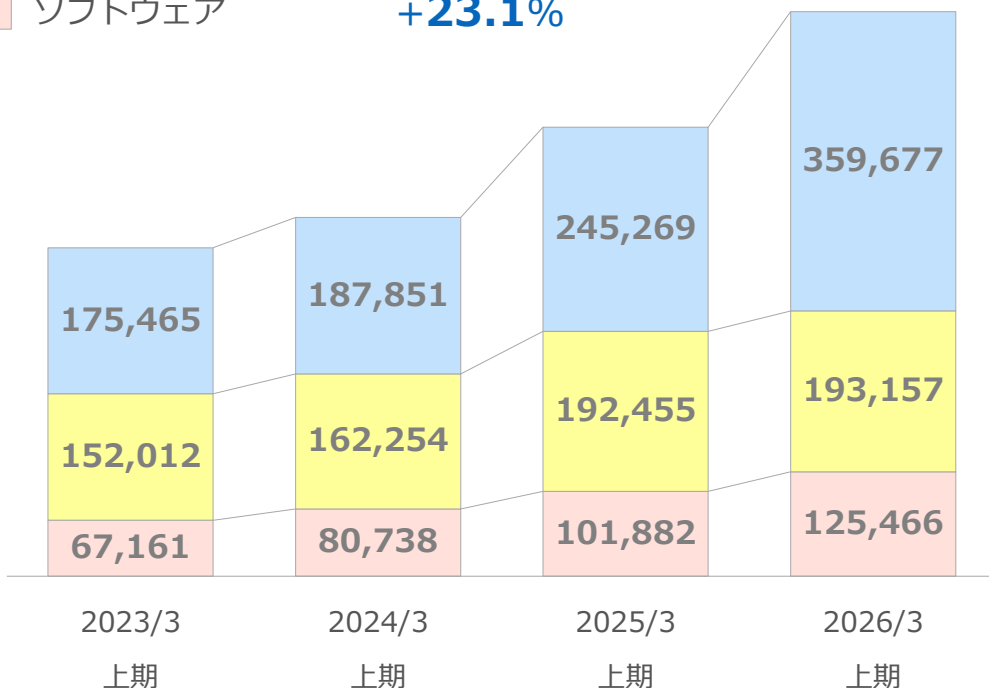
※MM総研調査結果より算出  
(2026/3上期は調査会社の速報値をベースにしているため、シェアの公表値を変更する可能性があります)

## ＜DISカテゴリ別取扱高推移＞

(百万円)

### 前年同期比

PC本体*	+46.6%
周辺機器・サービス等	+0.4%
ソフトウェア	+23.1%



\*PC本体=PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体

## 2026年3月期第2四半期ハイライト

### ■ PC本体\*等

- 主にWindows更新需要によるPC出荷額 (+53.6%) と GIGAスクールによるタブレット出荷額 (+77.2%) が大幅に増加
- サーバーはデータセンター等のITインフラ構築案件を中心に受注したが、前年同期に獲得した大型案件の反動により減少 (△4.9%)

### ■ 周辺機器・サービス等

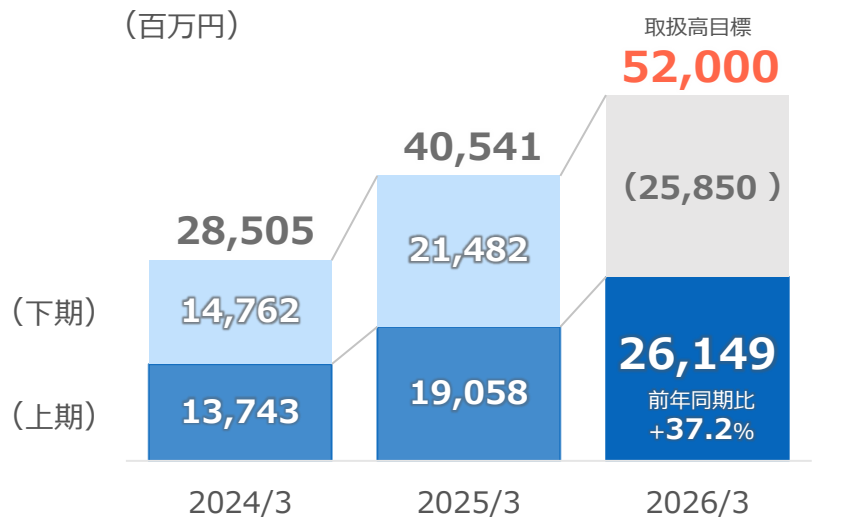
- 前年同期に獲得した大型案件の反動によりネットワーク (△7.5%)、ストレージ (△16.3%) が減少
- PC更新需要増加に伴いサービス&サポート (+13.0%) サプライ等 (+6.3%) が伸長

### ■ ソフトウェア等

- iKAZUCHI(雷)取扱高 +37.2%
- PC増加によるMicrosoft365のクロスセル提案やGIGAスクールでのソフトウェア購入により、クラウドサービスの実績が伸長
- IaaS関連サービス (AWS、Azure等) も継続的に拡大

## iKAZUCHI(雷)を利用した取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じた販売パートナーへの販売総額（ソフトウェアの内数）



### 対応ベンダー・サービス数

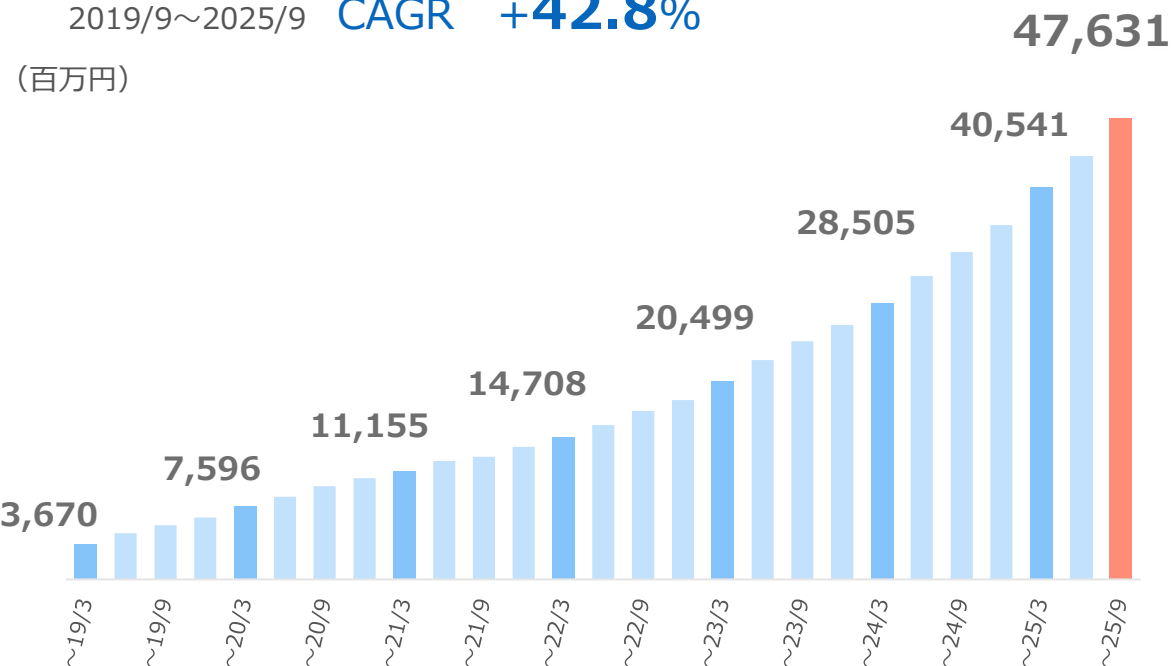
136ベンダー	▶	143ベンダー
258サービス (2025/6)		279サービス (2025/9)



サブスクリプションビジネスの市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化

## ■ iKAZUCHI (雷) 12カ月累計取扱高の推移 (年額課金等を考慮)

2019/9~2025/9 CAGR +42.8%

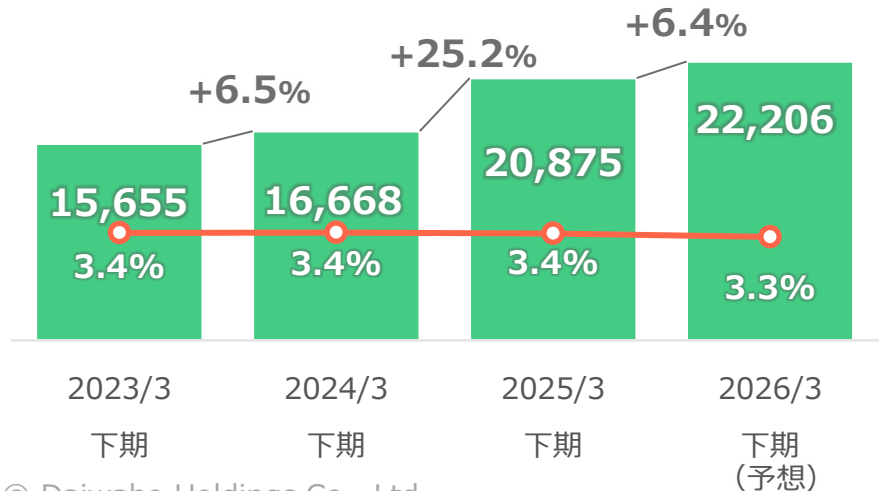
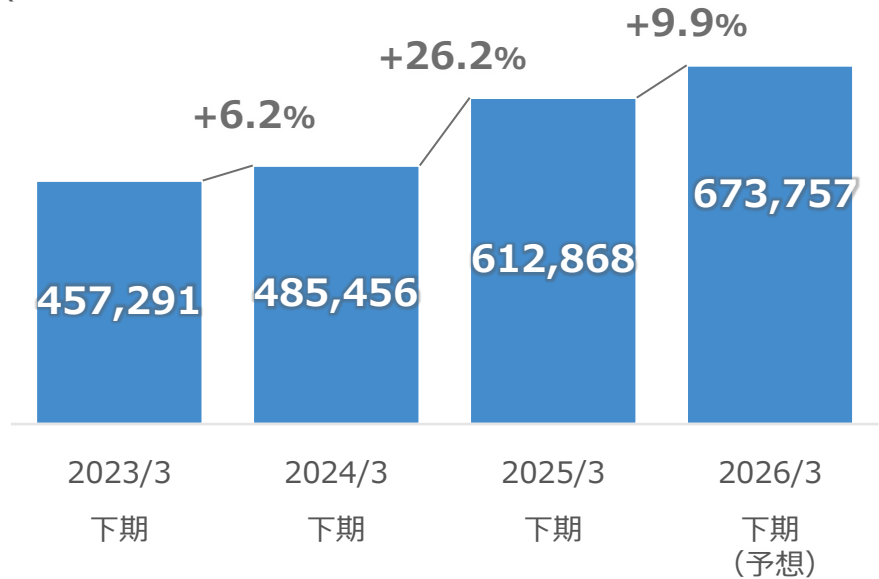


### iKAZUCHI (雷) の成長軌道

課金形態として年額での購入比率が高いため、四半期毎ではなく12カ月累計の推移を見ることで着実な成長を確認

# ITインフラ流通事業 下期（25年10月～26年3月末）見通し

(百万円)



## 下期の見通し

### ■ Windows更新需要

10月のサポート終了後も中小企業を中心に一定数の需要が見込まれ、3Qは比較的高い需要が継続し、4Qは徐々に通常期の水準に戻る見通し

### ■ GIGAスクール第2期

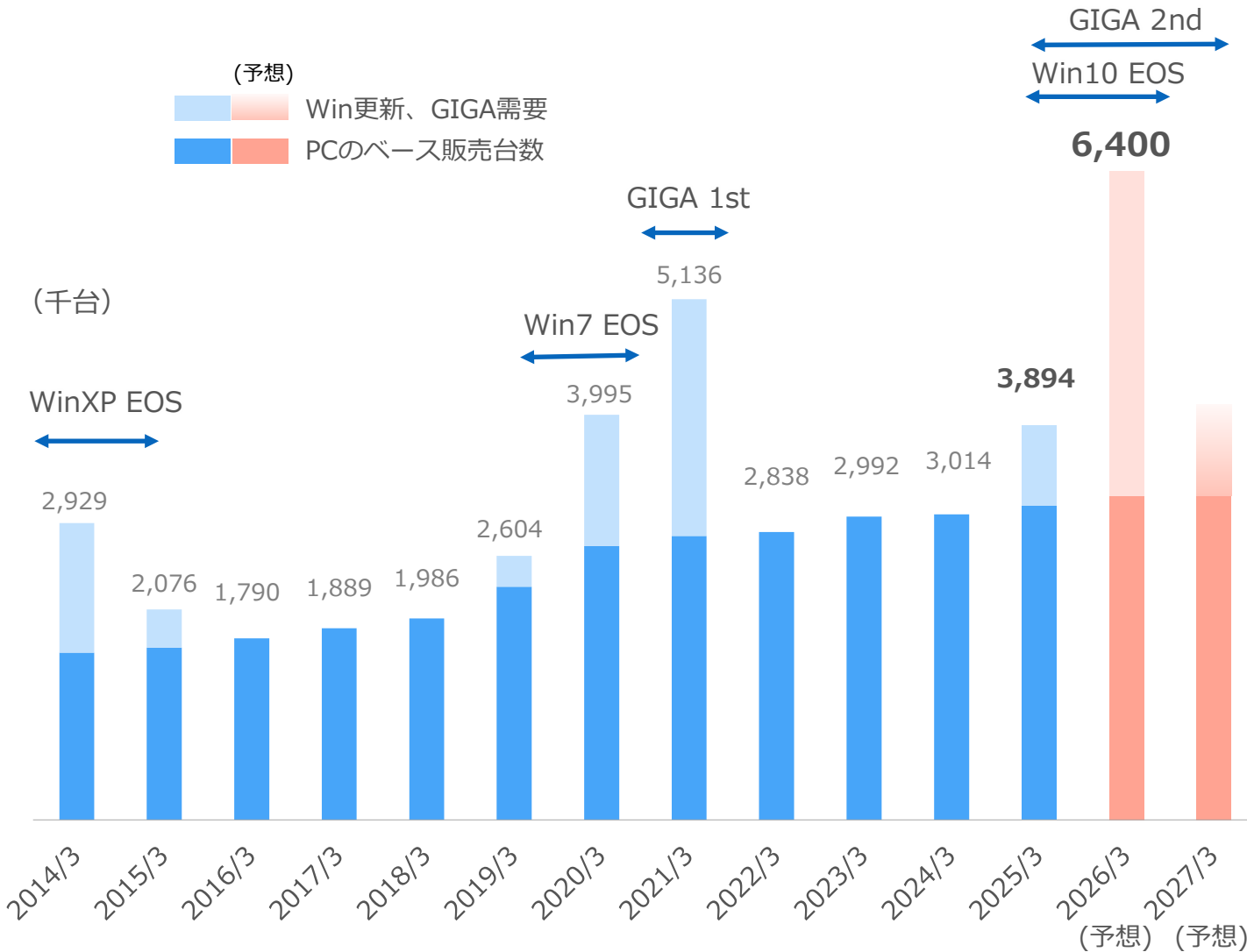
当初想定よりも全体の導入台数が増加し、今期の当社見通しを約1,000億円から約1,400億円に変更。PCの比率が70%に増加しており、PC出荷台数も大幅に増加する予想

### ■ 営業利益率

Windows更新需要が収束しGIGAスクール案件の比率が高まることにより、営業利益率は微減の見通しだが、利益確保に向けた取り組みを強化する

## ITインフラ流通事業の季節性について

通常は多くの国内企業で決算期となる3月と9月に需要が集中する傾向があるが、今期はPC需要の高まりにより、四半期ごとの業績推移は例年と異なる見通し



## Windows10のサポート終了

- 10月のWindows10サポート終了に向けて更新需要は継続。上期に需要が集中
- 3Qも比較的高い需要が継続し、4Qは徐々に通常期の水準に戻る

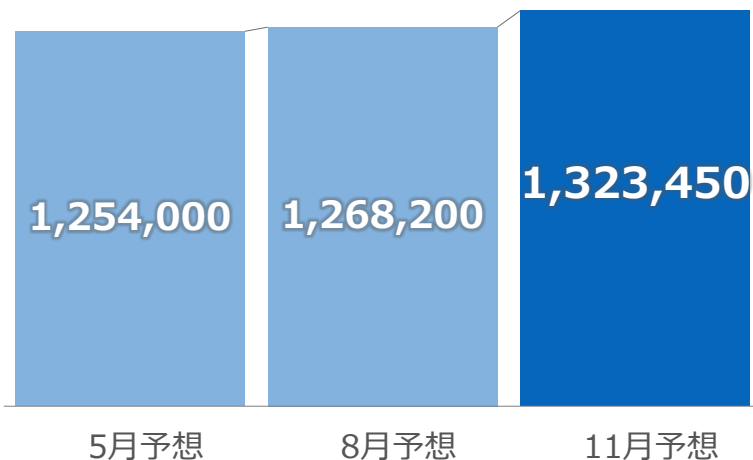
## GIGAスクール第2期 端末更新

- 25/3～27/3期に全国で約1,000万台の需要があり、今期は**※約600万台 (全体の約60%)**の更新を予測  
※当社試算を上方修正
- 当社はPC+タブレットや関連製品・サービス等を含めて**約1,400億円**の売上高獲得を目指す

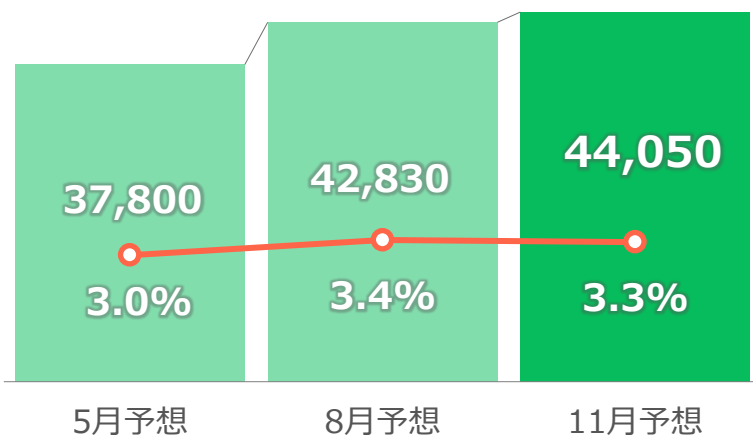
## 2027年3月期 当社PC出荷予想

- Windows更新需要は終了し約80万台減少
- GIGAスクール需要は全体の30%程の見通し
- AI PCの市場浸透期待を含め底堅い需要は継続

## 2026年3月期 業績予想推移 (百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上高営業利益率



## 成長分野でのポジション & バリューアップ

- クラウドプラットフォーム市場でのシェア拡大
- SaaSモデルにおける事業領域の拡大

## DX推進によるパートナーリレーションシップ

- 企業価値向上に向けたビジネスモデル変革 生産性向上の実現
- 先端技術を含む海外ベンダー拡販による事業領域拡大



## 業界リーダー企業としてコア領域の深化

- ITデバイス基盤における事業領域の拡大
- 高付加価値商材 ビジネス領域の成長
- 技術専門部隊による支援体制を整備し提案力強化

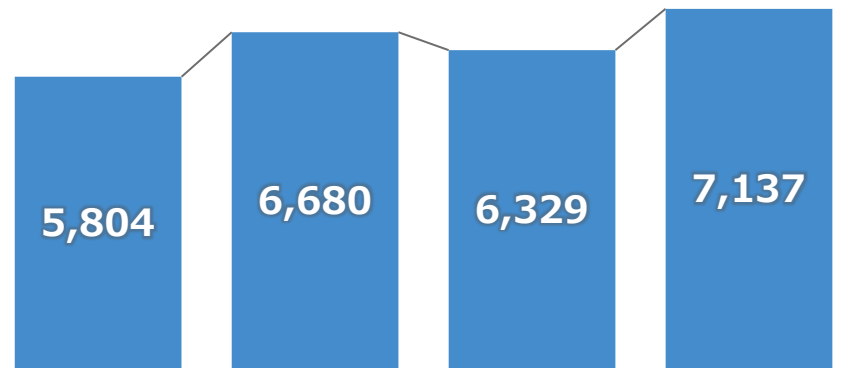
## 企業ブランディングと戦略的投資

- 社会認知度向上、業界発展への寄与および地域社会への貢献
- 事業強化に向けた投資 (システム、M&A、業務提携)
- 業界最適化に向けた投資 (物流機能、iKAZUCHI(雷))



# 産業機械事業

(百万円)



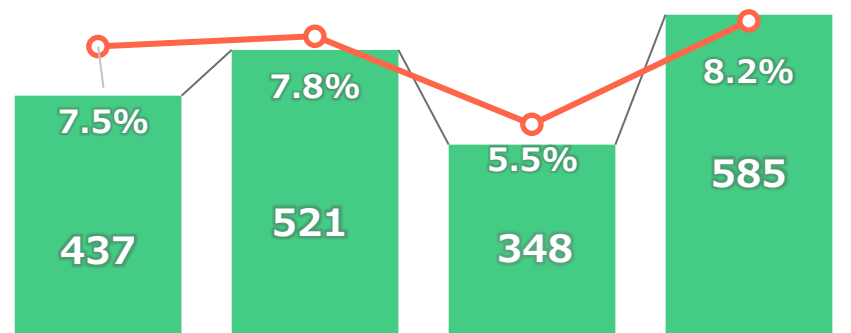
売上高 **7,137**百万円 (前年同期比+**12.8**%)

営業利益 **585**百万円 (前年同期比+**68.2**%)

受注高 **6,583**百万円 (前年同期比+**27.1**%)

2023/3 2024/3 2025/3 2026/3  
上期 上期 上期 上期

■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上高営業利益率



## 事業概況

### 工作機械部門

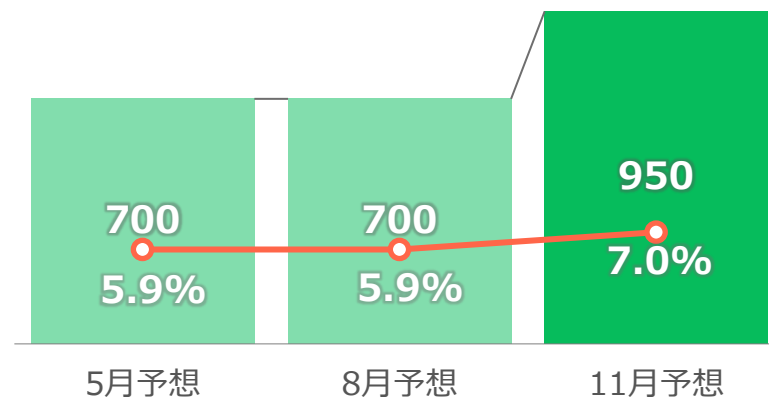
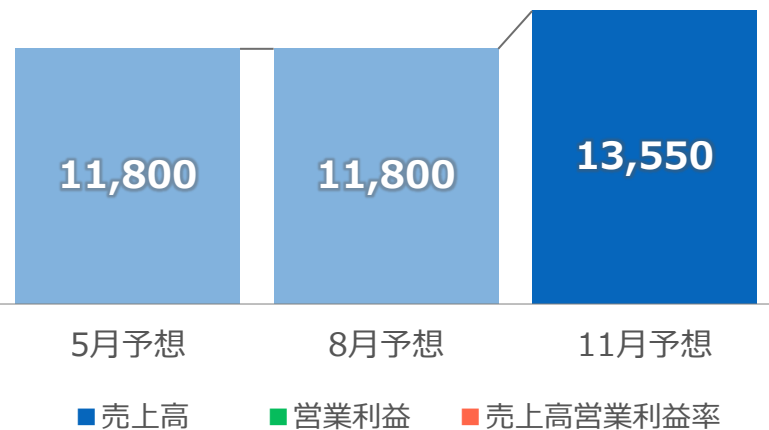
- 日本工作機械工業会の4~9月受注総額は前年同期比5.5%の微増となるなか、当社は主力の航空機業界の他、造船・エネルギー業界からの受注を獲得し大幅増加
- 1Qに大型機を売上計上した他、メンテナンス等のサービス需要を獲得
- 短納期販売に備えた生産体制、エネルギー・航空機業界の受注環境回復に伴い予想されるオーバーホールやメンテナンス需要に備えたサービス人材体制の強化を促進

### 自動機械部門

- 人手不足を補うための省人化ニーズの高まりを捉え、本体の販売台数が増加したことで増収増益
- 期初のシステム障害による影響で営業活動が制限されたこともあり、上期の受注高は前年同期比7.6%減となった。復旧に伴い営業活動強化に取り組む

## 2026年3月期 業績予想推移

(百万円)



※ランサムウェア被害による営業活動の停滞と復旧作業の影響で、26年3月期下期業績の減少を予想していたが、上期の状況を考慮し上方修正

## 工作機械における潜在市場への事業拡大

- 省人化・無人化機能搭載の機台による生産効率向上の提案
- 長岡工場増築による戦略的かつ計画的な生産の実施
- 短納期での販売促進を展開し新規市場への拡大を図る
- 海外市場のさらなる拡大に向け成長が見込まれる市場への展開を模索



- 拡大が見込めるエネルギー・航空機業界を重点とした提案営業の強化

## 自動機械における包装機自動化需要の取り込み

- 受注案件における適切なりスク評価による生産の標準化
- 製造委託推進による原価改善
- 食品・製菓業界に向けて提案営業の強化

## サービス強化による収益力向上

- 顧客満足度向上と安定的な収益拡大を図る
- 導入済み機台のオーバーホール提案を重点的に実施
- 協力企業の開拓や社員のスキルアップによる技術力向上

# | 2026年3月期 業績見通し

# 2026年3月期下期業績予想

## <上方修正>

(百万円)	2025/3 (実績)		2026/3						増減額 ③-②	増減額 ③-前期	前年 同期比
			①期初予想 (5/14開示)		②修正予想 (8/5開示)		③修正予想 (11/6開示)				
			金額	率	金額	率	金額	率			
売上高	619,434		640,000		640,000		<b>680,170</b>		+40,170	+60,735	+9.8%
ITインフラ流通	612,868		634,400		634,400		<b>673,757</b>		+39,357	+60,888	+9.9%
産業機械	6,565		5,600		5,600		<b>6,412</b>		+812	△153	△2.3%
営業利益	21,376	3.5%	21,630	3.4%	21,630	3.4%	<b>22,564</b>	3.3%	+934	+1,187	+5.6%
ITインフラ流通	20,875	3.4%	21,350	3.4%	21,350	3.4%	<b>22,206</b>	3.3%	+856	+1,330	+6.4%
産業機械	504	7.7%	280	5.0%	280	5.0%	<b>364</b>	5.7%	+84	△139	△27.7%
経常利益	21,615	3.5%	21,780	3.4%	21,780	3.4%	<b>22,691</b>	3.3%	+911	+1,076	+5.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	15,277	2.5%	15,000	2.3%	15,000	2.3%	<b>15,063</b>	2.2%	+63	△214	△1.4%
1株当たり当期 純利益 (円)	-		-		-		<b>169.23</b>		-	-	

### 修正理由

下期も企業向けのIT需要が引き続き好調に推移し、GIGAスクール第2期による更新需要も継続する見通しのため、下期の業績予想を修正

# 2026年3月期 通期業績予想

<上方修正>

(百万円)	2025/3 (実績)		2026/3						増減額 ③-②	増減額 ③-前期	前年 同期比
			①期初予想 (5/14開示)		②修正予想 (8/5開示)		③修正予想 (11/6開示)				
			金額	率	金額	率	金額	率			
売上高	1,136,817		1,265,800		1,280,000		<b>1,337,000</b>		+57,000	+200,182	+17.6%
ITインフラ流通	1,123,922		1,254,000		1,268,200		<b>1,323,450</b>		+55,250	+199,527	+17.8%
産業機械	12,895		11,800		11,800		<b>13,550</b>		+1,750	+654	+5.1%
営業利益	34,899	3.1%	38,500	3.0%	43,530	3.4%	<b>45,000</b>	<b>3.4%</b>	+1,470	+10,100	+28.9%
ITインフラ流通	34,045	3.0%	37,800	3.0%	42,830	3.4%	<b>44,050</b>	<b>3.3%</b>	+1,220	+10,004	+29.4%
産業機械	852	6.6%	700	5.9%	700	5.9%	<b>950</b>	<b>7.0%</b>	+250	+97	+11.5%
経常利益	35,454	3.1%	38,800	3.1%	43,830	3.4%	<b>45,300</b>	<b>3.4%</b>	+1,470	+9,845	+27.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	24,751	2.2%	26,700	2.1%	30,100	2.4%	<b>30,800</b>	<b>2.3%</b>	+700	+6,048	+24.4%
1株当たり当期 純利益 (円)	271.37		297.26		335.73		<b>346.04</b>		+10.31	+74.67	

## 修正理由

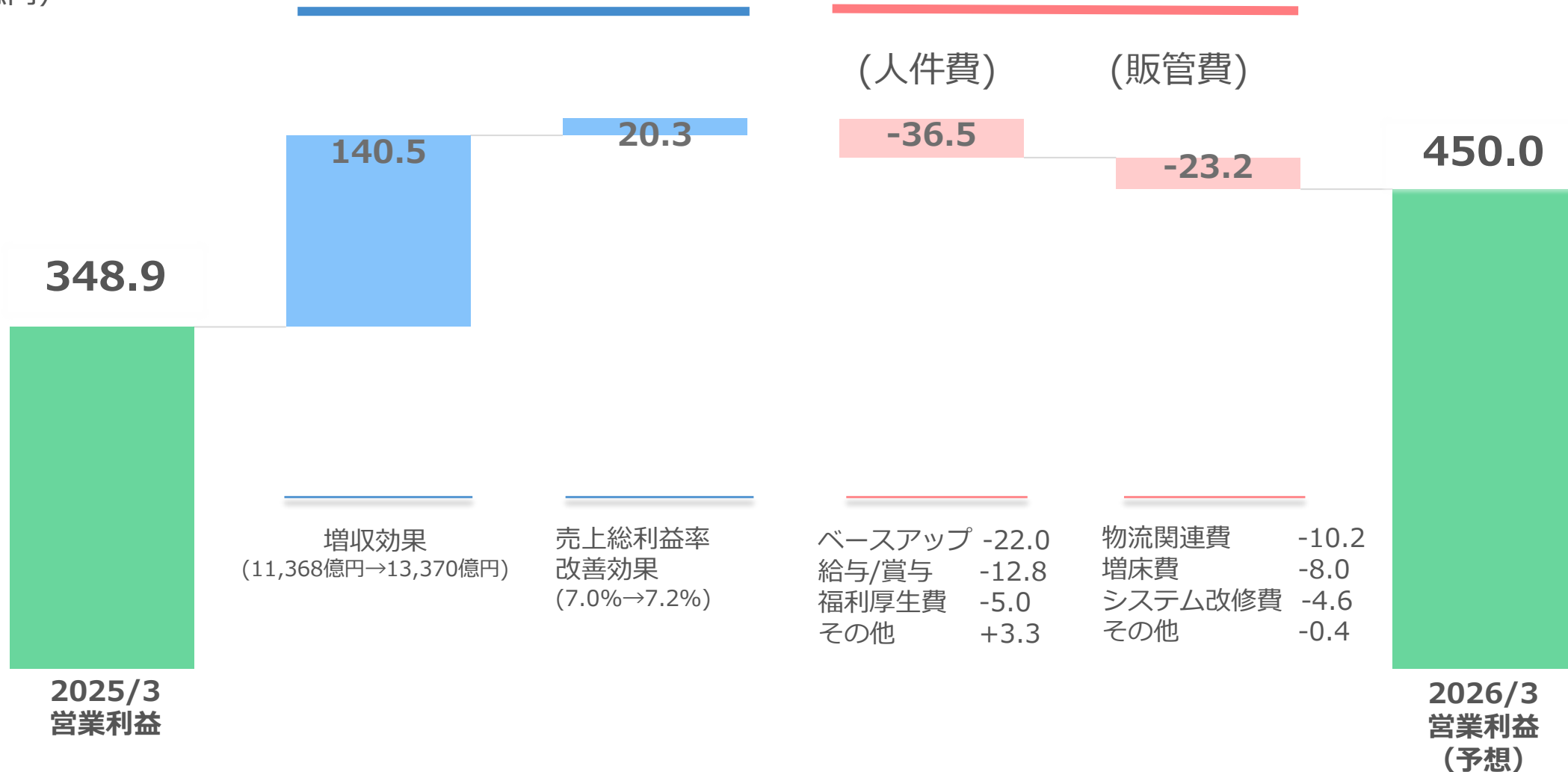
下期の業績予想修正に伴い、通期見通しを修正

# 営業利益 通期見通し

(億円)

## 売上総利益

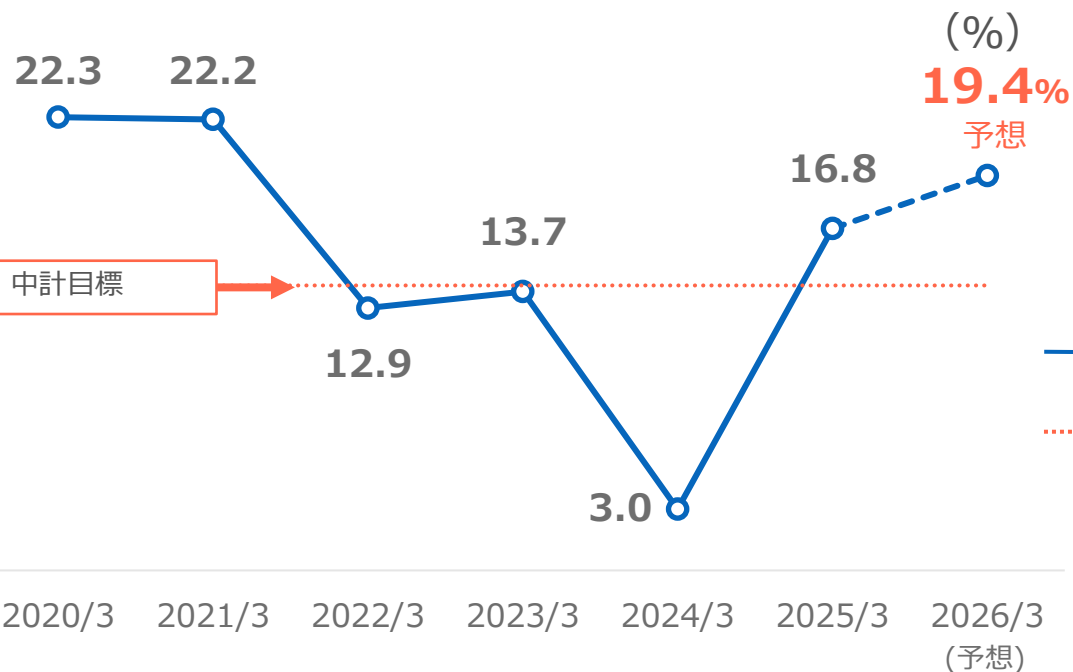
## 販売費及び一般管理費



# 中期経営計画の進捗状況 <グループ経営指標>

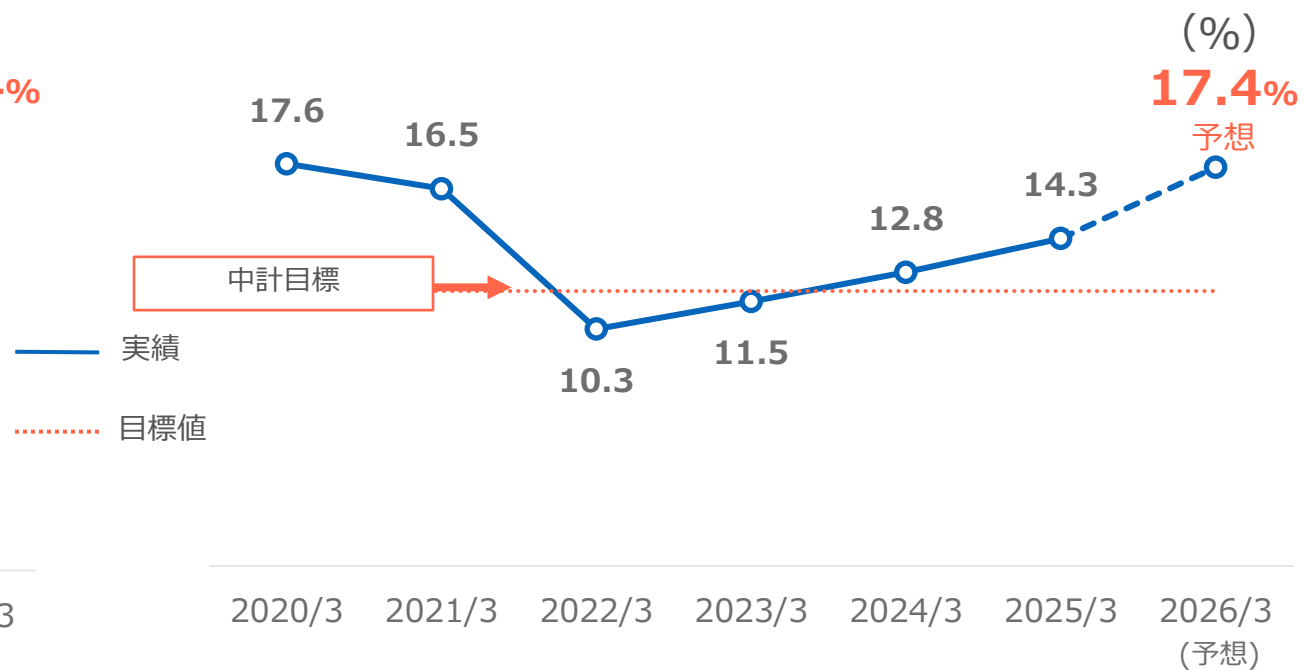
## ROE 14%以上

自己資本当期純利益率  
<株主資本に対するリターン>



## ROIC 12%以上

投下資本利益率  
※税引後営業利益 / (純資産 + 有利子負債)  
<投下資本に対するリターン>



好調な業績を背景にROE・ROICともに  
中計目標水準をクリアする見通し

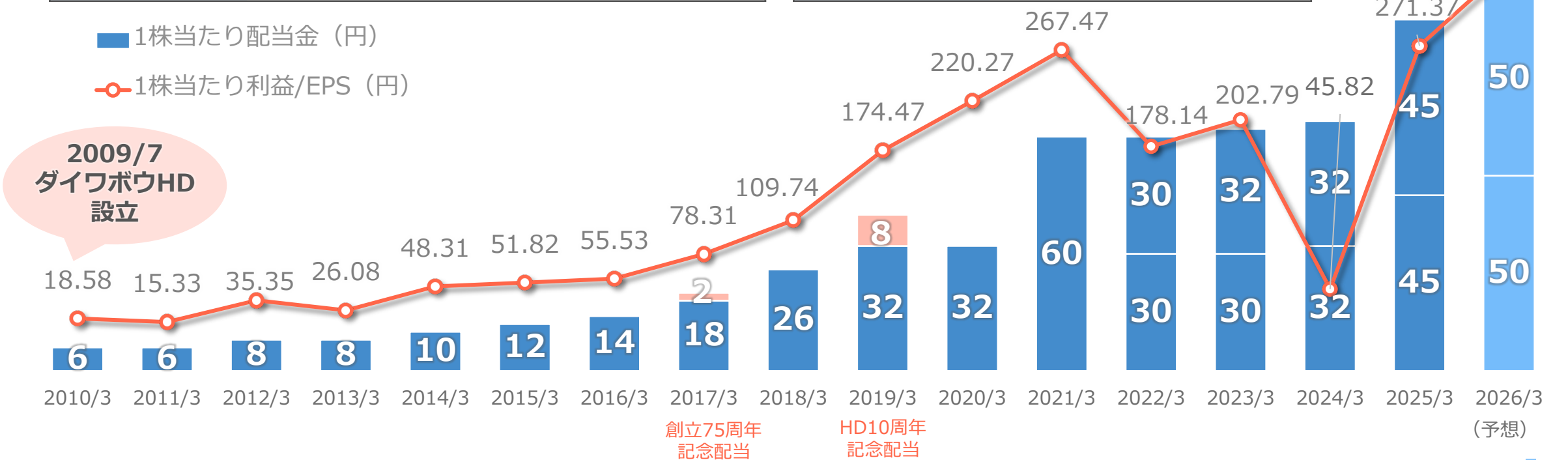


# 株主還元

# 株主還元方針

株主還元方針	
配当	配当性向30%以上 現中期経営計画期間中は <b>累進配当</b> とする方針
自己株式取得	総還元性向 <b>60%以上</b> を目安 <b>機動的な自己株式取得</b> を組み合わせる <b>7,877,432株の自己株式を消却予定</b> (11/28)

2026年3月期（期末予想）			
1株配当	中間	期末	年間
	50円	50円	100円
自己株式取得	上限 <b>80億円</b> (2025/7/1~2026/2/27予定)		
配当性向	28.9%		
総還元性向	54.8%		

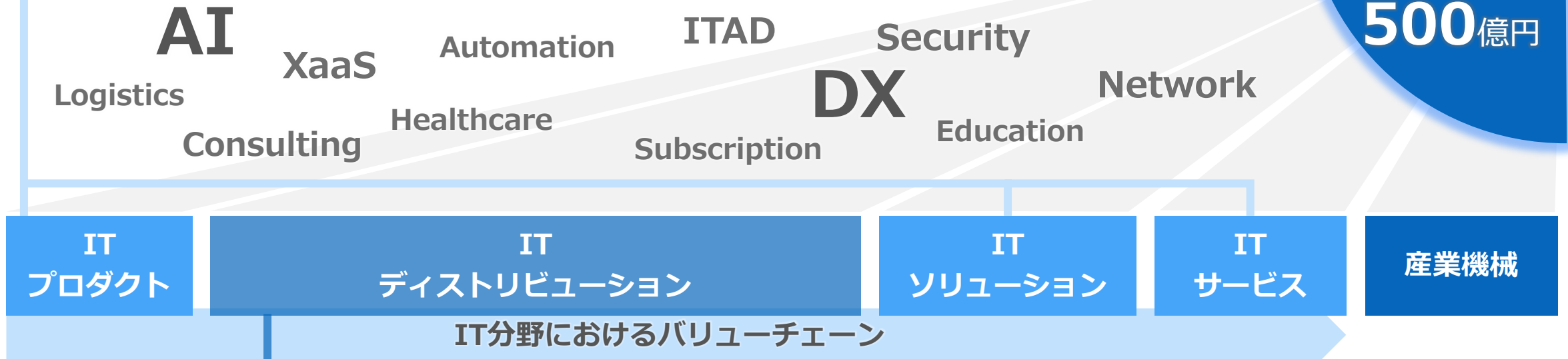


# 『2030 VISION』で達成したい当社のあるべき姿（再掲）

新規領域は知見のあるIT市場の周辺分野や  
AI・DX関連を含めた先進テクノロジー分野を中心に模索

FY2030目標  
連結営業利益

500億円



コア領域のさらなる強化・深化に向けて

3つのS【 Service / Solution / Sustainability 】を中心に機能拡充

迅速な意思決定と投資が可能なホールディングス体制の利点を活かして持続的成長を実現

▶▶▶ あるべき姿の体現に向け社名変更も検討

## 参考資料

- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ 事業概要
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 業績推移グラフ

## 01

### ホールディングス 体制での成長

- 持株会社として新たな事業領域への参入を探求
- 事業会社はセグメント内での強化・再編に着手

## 02

### "過去最高" へのチャレンジ

- 売上高、利益における過去最高業績の更新
- 会社、組織、事業、個人それぞれのフィールドでベストパフォーマンスを目指す

## 03

### ステークホルダー エンゲージメントの向上

- 株主、取引先、従業員、地域社会などとの信頼関係向上と相互理解による協働
- 人的資本、システム、ガバナンス面など必要とされる経営基盤のさらなる強化
- ウェルビーイング経営の推進

# 中期経営計画の進捗状況 <損益>

## 中期経営計画の進捗

※中計2年目以降の予想を更新  
※11/6 上方修正

(億円)	2025/3期 (計画)	2026/3期 (計画)	2027/3期 (計画)
売上高	9,750	10,500	10,000
営業利益	311	350	330
営業利益率	3.2%	3.3%	3.3%

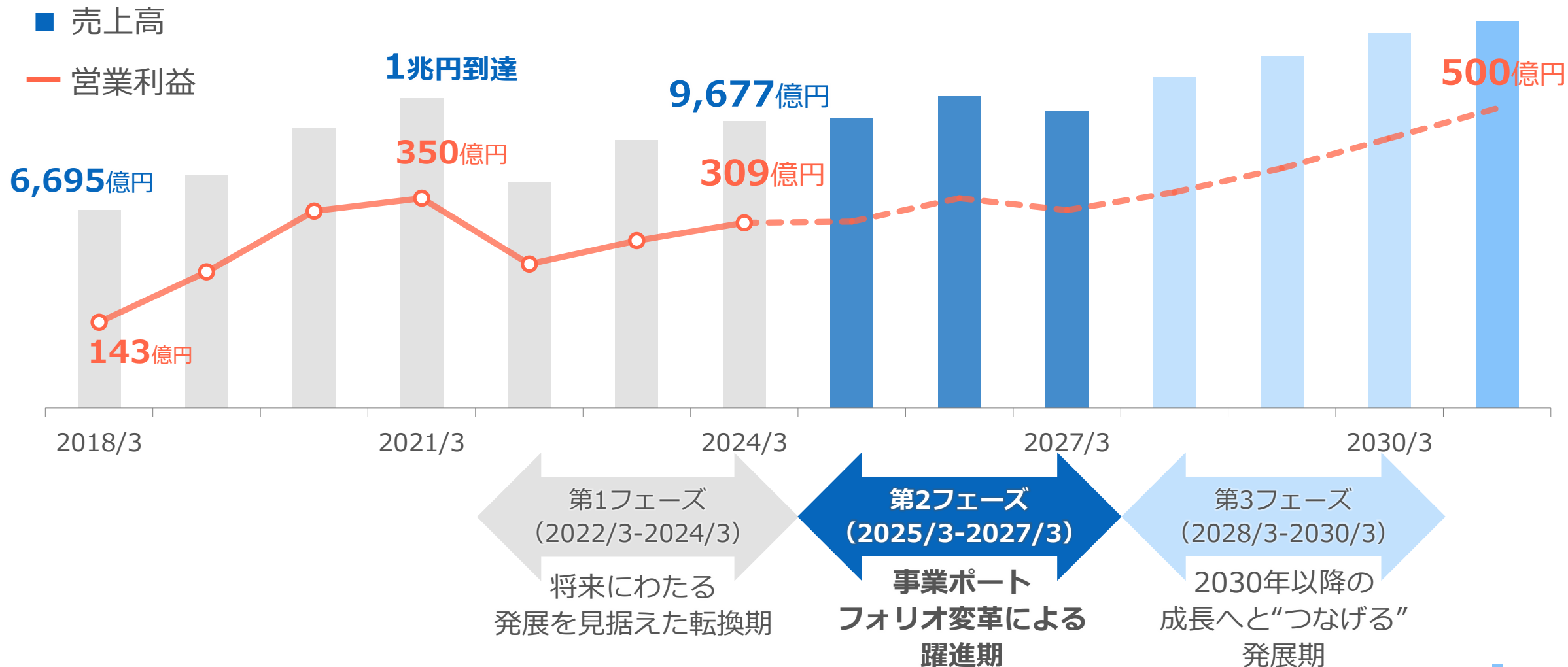


(億円)	2025/3期 (実績)	2026/3期 (予想)	2027/3期 (予想)
売上高	11,368	13,370	11,400
営業利益	348	450	360
営業利益率	3.1%	3.4%	3.2%

## 今後の見通し

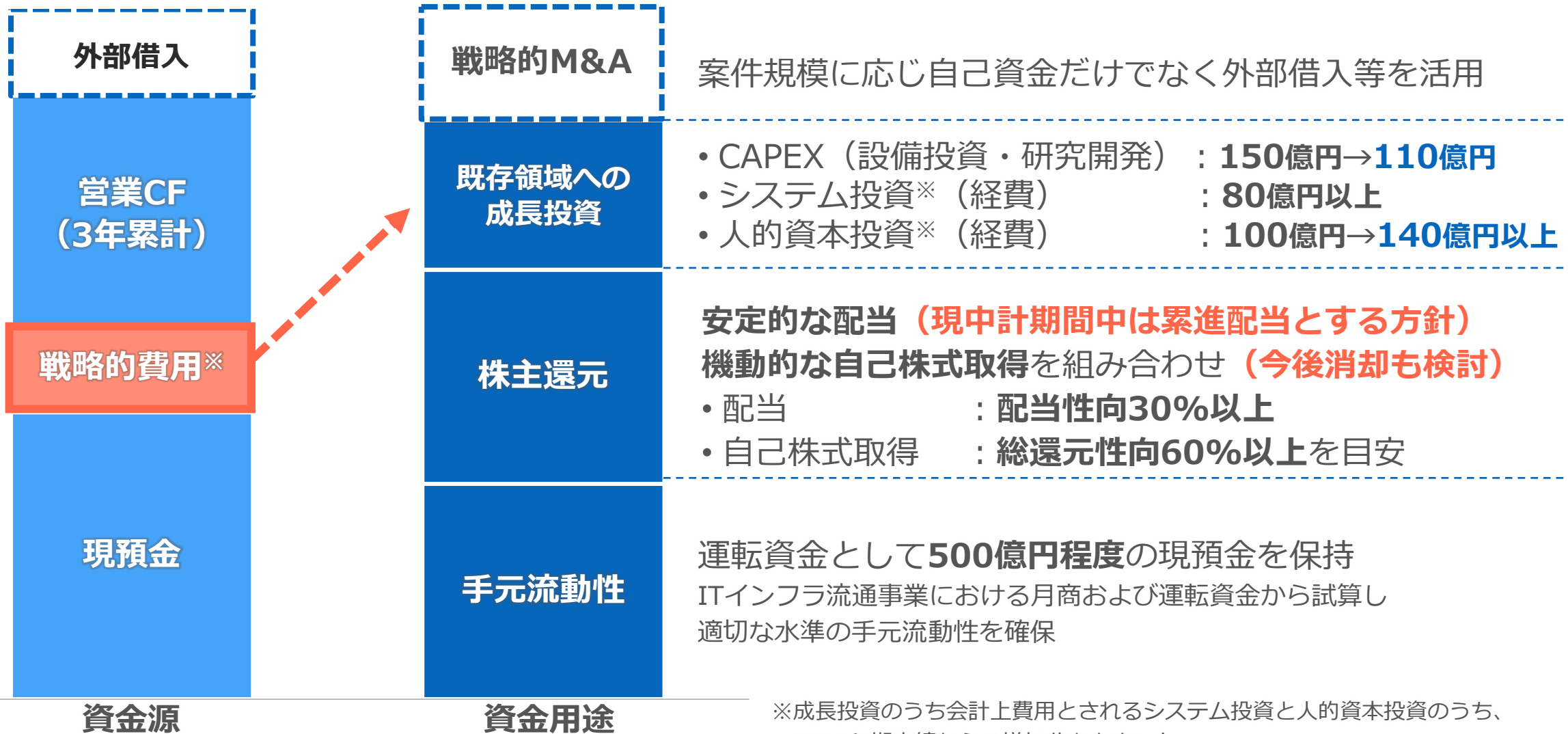
- ▶ 人手不足に対するIT投資の拡大に伴い、特需を除くベースの需要は着実に成長が続く見込み
- ▶ 市場のPC出荷台数に頭打ち感はあるものの、AI PCによる単価上昇や用途拡大等に伸びしろあり
- ▶ 最も成長率の高いクラウド関連領域にもiKAZUCHI(雷)を中心に関与し、関連サービスを拡充
- ▶ M&Aの活用も含め新規領域への拡大を推進し利益率の向上を図る

## 『2030 VISION』からバックキャストする観点でも重要な3カ年



# キャピタルアロケーション方針（2025/3期～2027/3期）

## 3カ年累計でのキャピタルアロケーションイメージ



※成長投資のうち会計上費用とされるシステム投資と人的資本投資のうち、2024/3期実績からの増加分をカウント



## 中期経営計画

### 人的資本投資

(3カ年で※100億円以上)

+

### ウェルビーイング 経営

## 人的資本施策

### ダイバーシティ推進

— 女性活躍推進、シニア活躍推進 等

### 人材採用の強化

— グループ採用、キャリア採用 等

### 育成環境の整備

— 研修・OJT、リスキリング支援 等

### 従業員エンゲージメント向上

— 処遇・評価、福利厚生、サーベイ 等

### 健康経営の推進

— 健康保険、労働時間管理、安全衛生 等

新事業・新製品の展開

従業員一人ひとりの  
チャレンジ姿勢の強化

従業員の発想力・スキル向上  
稼働効率UP

生産管理能力強化による  
納期・在庫の改善

労働生産性  
の向上



利益率  
資本回転率  
アップ



ROIC向上

## TOPICS

- ▶ 2023年以降グループ各社にて**大幅な賃金ベースアップ**（初任給改定含む）を実施
- ▶ 今期も大幅なベースアップとともに、教育や福利厚生の充実などに積極投資
- ▶ 中計で予定していた3カ年で100億円以上の人的資本投資を※**140億円以上**に拡大
- ▶ DISにて「**健康経営優良法人2025**」の認定を取得

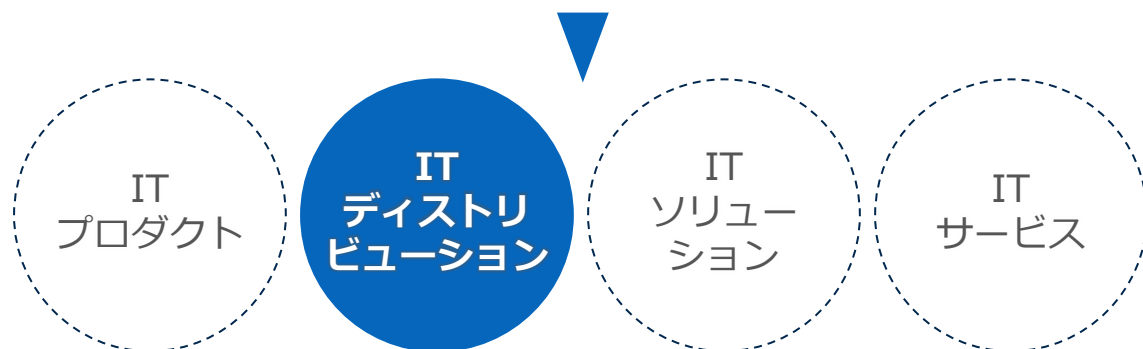
グループ連結の労働生産性  
**1人当たり売上高 目標値**  
3カ年平均 **+5.7%**以上

さらなる成長のために、M&Aを積極的に推進する計画  
事業領域とハードルレートを意識した規律ある投資判断により実施する

## 事業領域

M&Aは以下の事業領域を中心に実施を検討

- AI
- DX
- XaaS
- Subscription
- Network
- Logistics
- ITAD
- Consulting
- Security
- Automation
- Education
- Healthcare



## 投資・調達の意思決定

定量的に投資判断を実施

**資本コストを上回るか**

株主資本コスト：6.2%~7.5% WACC：5.8%~7.0%

**長期的にEPSの向上に資するか**

自己株式の取得と比較検討

**財務健全性：長期的に格付A※を維持**

**資本効率を低下させないか**

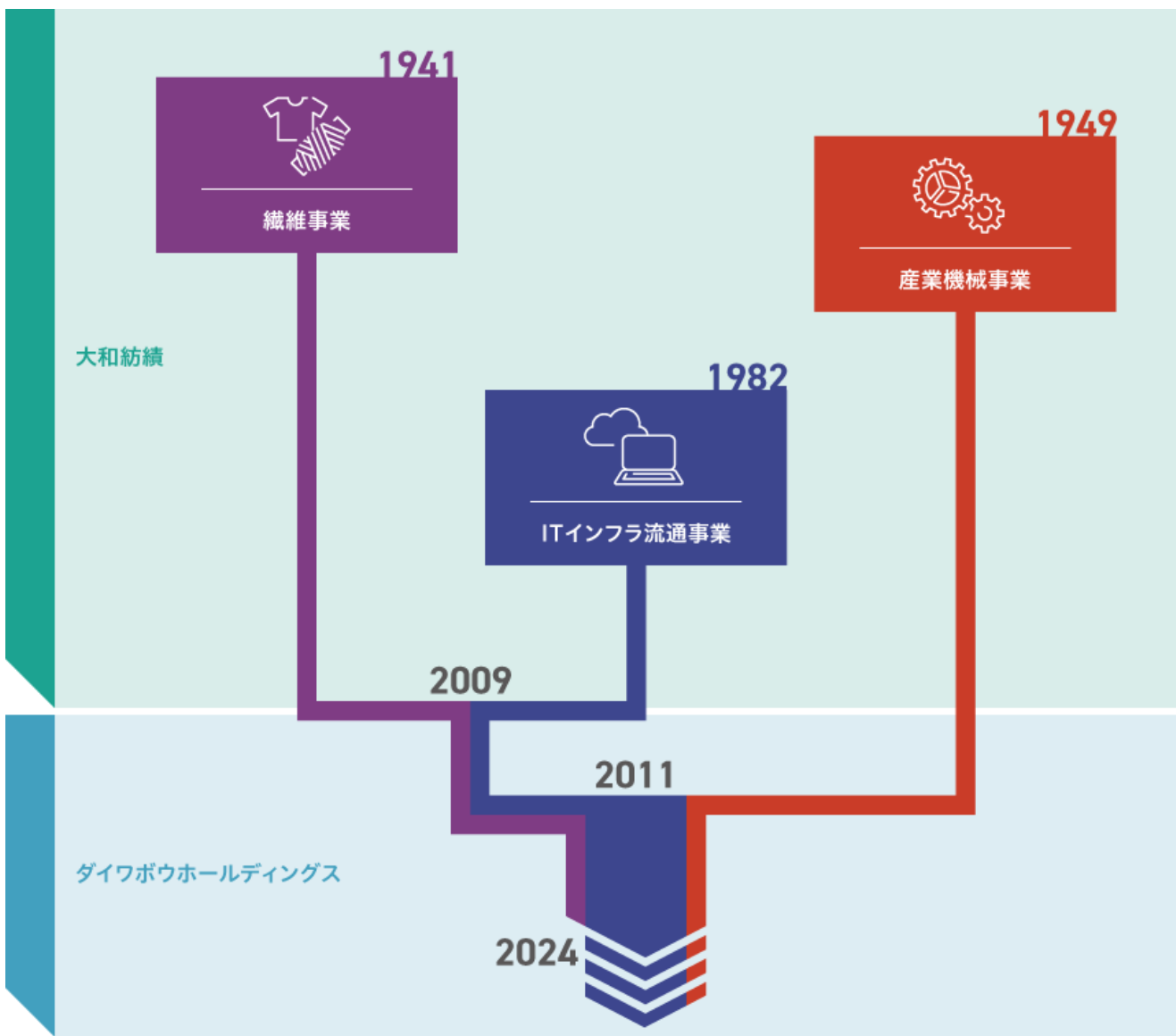
**資金調達方針**

小規模のものは手元資金で賄うが、必要に応じて借入を中心に資金調達

## 参考資料

- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ 事業概要
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 業績推移グラフ

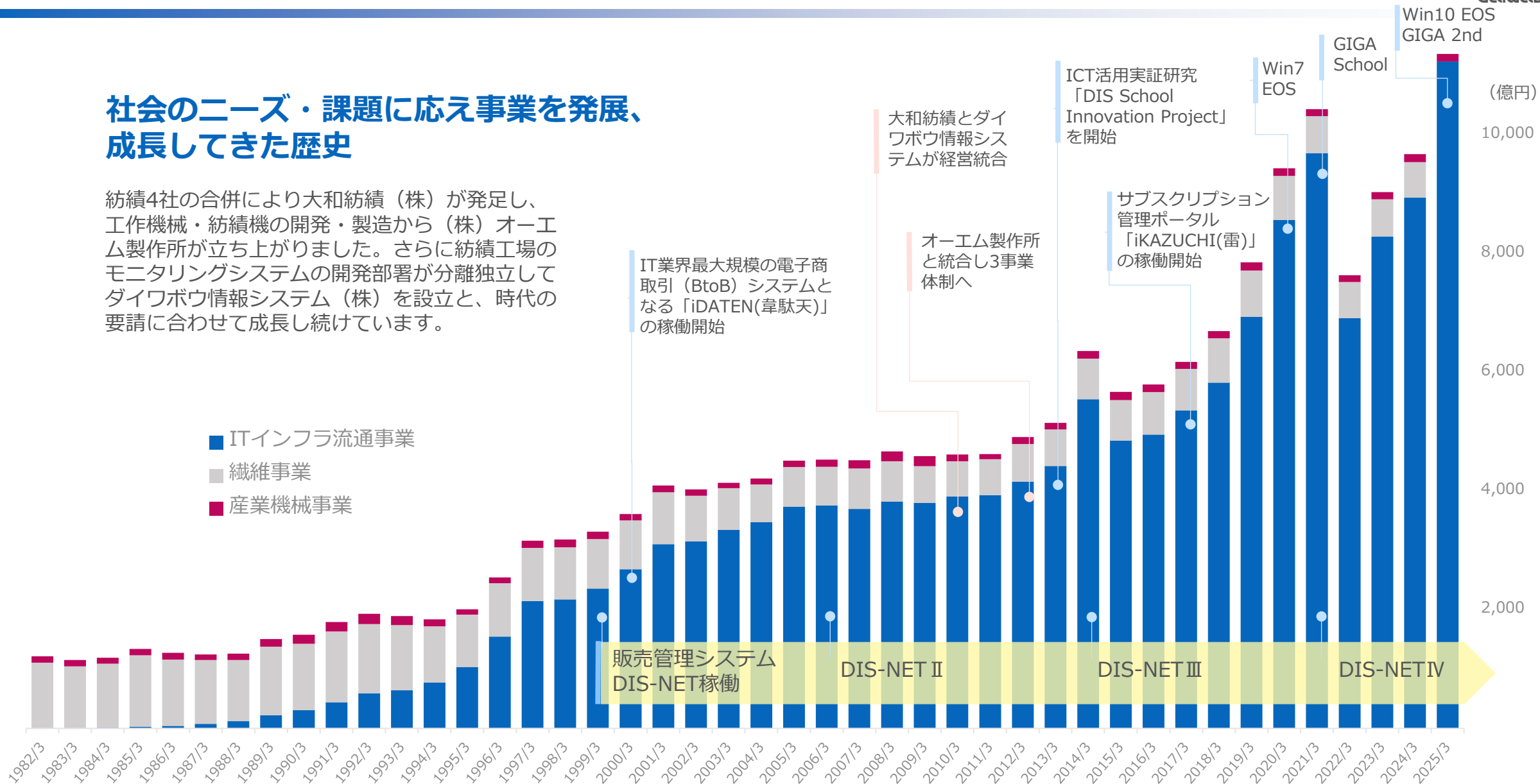
# グループの沿革



- 1941. 4 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
- 1949. 5 大和紡績が東証1部上場
- 1949. 7 大和紡績が宍道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立  
→その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併し**オーエム製作所**が誕生
- 1971.11 **オーエム製作所**が東証1部上場
- 1982. 4 大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
- 2000. 9 **ダイワボウ情報システム**が東証1部上場
- 2009. 4 大和紡績と**ダイワボウ情報システム**が経営統合
- 2009. 7 大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更  
繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
- 2011. 7 **ダイワボウホールディングス**と**オーエム製作所**が経営統合 ⇒**3事業体制**へ
- 2023.11 大和紡績の独立化（株式譲渡）を決定
- 2024. 3 株式譲渡により**大和紡績が独立**

## 社会のニーズ・課題に応え事業を発展、成長してきた歴史

紡績4社の合併により大和紡績（株）が発足し、工作機械・紡績機の開発・製造から（株）オーエム製作所が立ち上がりました。さらに紡績工場のモニタリングシステムの開発部署が分離独立してダイワボウ情報システム（株）を設立と、時代の要請に合わせて成長し続けています。



# ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み

## 1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

## 1983-1984 多店舗展開

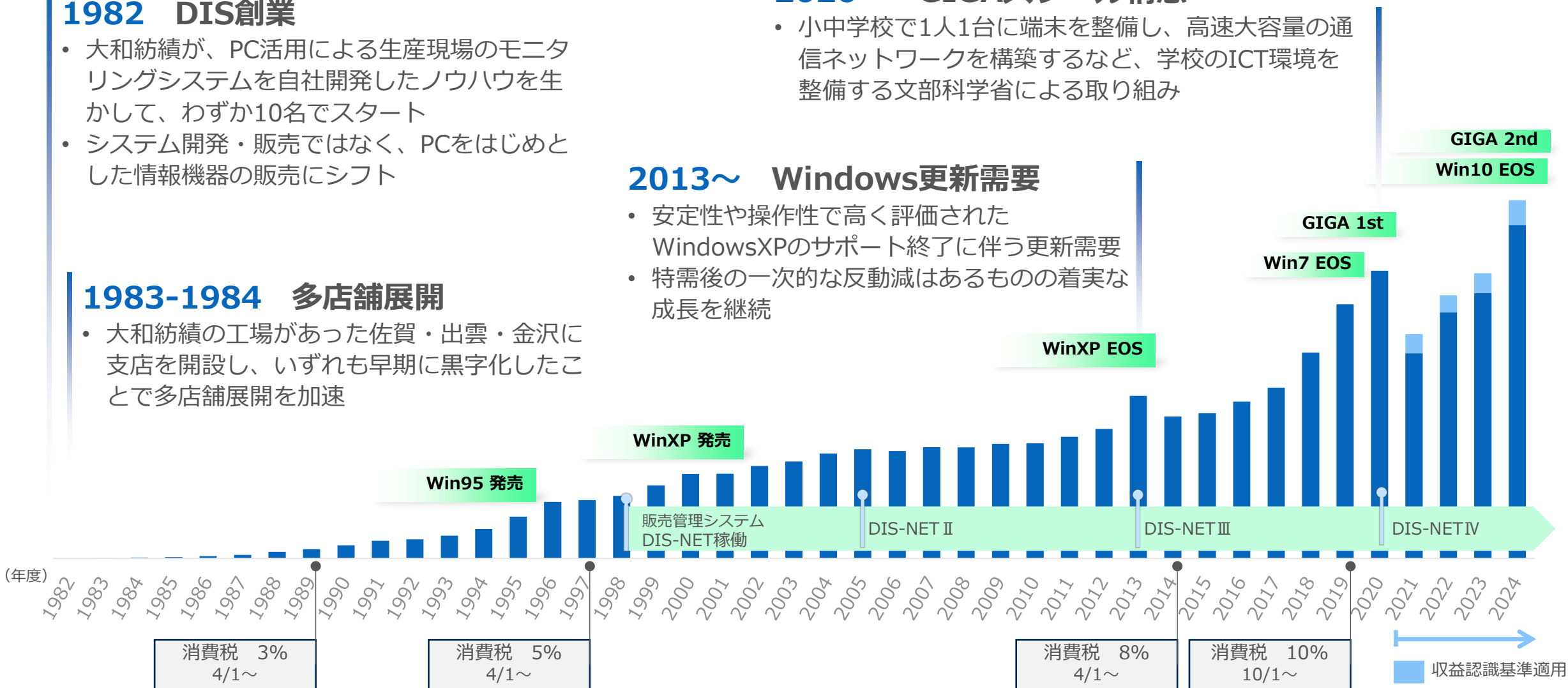
- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

## 2020～ GIGAスクール構想

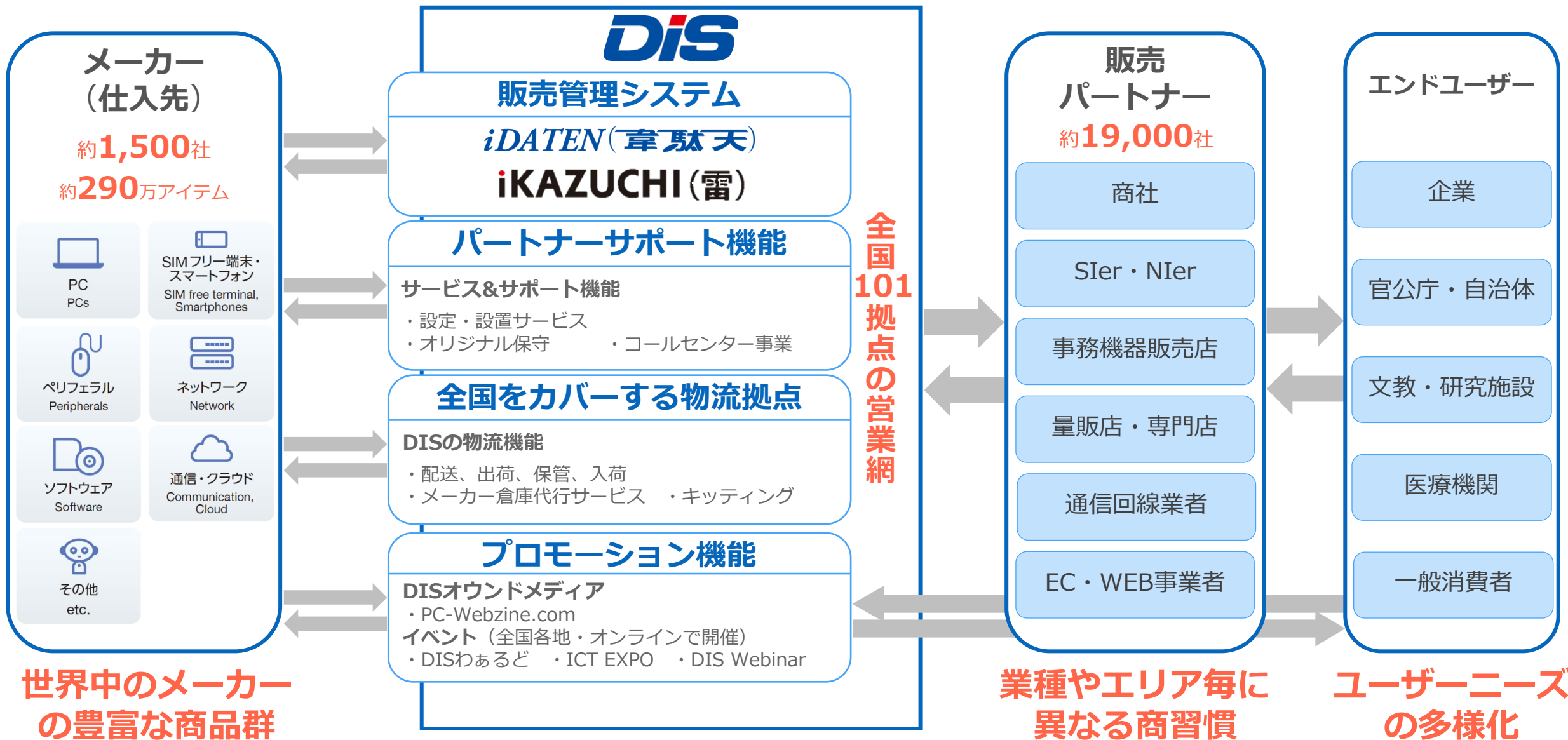
- 小中学校で1人1台に端末を整備し、高速大容量の通信ネットワークを構築するなど、学校のICT環境を整備する文部科学省による取り組み

## 2013～ Windows更新需要

- 安定性や操作性で高く評価されたWindowsXPのサポート終了に伴う更新需要
- 特需後の一次的な反動減はあるものの着実な成長を継続



# ITインフラ流通事業の事業構造



# ディストリビューターの役割と付加価値

## メーカー (仕入先)

約1,500社 約290万アイテム

商品開発
営業・販促
受注・生産
在庫・出荷
請求・回収

DISの営業網を活用し販路拡大・  
販売業務効率化

- 長年培ったサプライチェーンマネジメントにより**全国の需要量・ニーズ**を連携し、**メーカーの生産計画やプロモーション**に反映
- 物流センターをメーカーの倉庫機能として活用することで、**メーカーの時間・コスト節約**に加えて、**キittingや他社製品と組み合わせた出荷を実現**
- 海外から日本市場に新規参入するメーカーと協業し**国内を網羅した販売網・配送網**を提供

一本化  
協業  
代行

**DIS**  
の役割

一本化  
協業  
代行

全国101拠点  
の営業網

物流センター

商品選定・  
提案

市場ニーズ  
の把握

キitting

保守サポート

選定	設定
提案	納品
見積	支払
発注	顧客対応

## 販売パートナー

約19,000社

DISの機能を有効に活用することで  
自社の得意なビジネス領域に注力

- 様々なメーカーの商品・情報を取り揃え、**最適な組み合わせで提案・提供**
- 豊富な在庫から販売パートナーに代わって**全国のエンドユーザーにスピーディに納品**
- 出荷前のキittingや運用、保守、延長保証等の**技術サービスをワンストップで提供**
- 地域特性に応じたイベント開催・プロモーションなど**全国拠点を活用した需要創出**



## 関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働

倉庫面積：36,342㎡

## 関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働

倉庫面積：44,753㎡



東西メガセンターを中心に  
効率化・生産性向上に注力

### ロボットストレージシステム

→作業効率・スペース最適化  
【ロボット稼働台数】

関東中央：45台、関西：30台

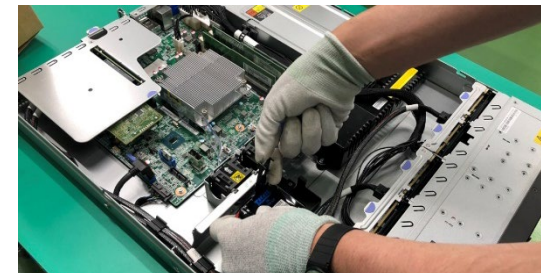
### キittingセンター併設

→入荷＞作業＞出荷に迅速対応

PC・タブレット  
キitting実績：年間26.2万台  
(2025/3期)

### トラック予約受付システム

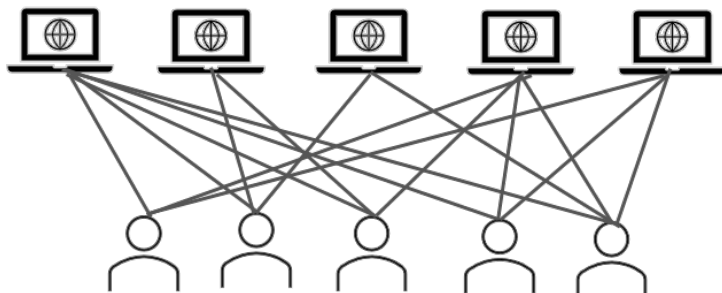
→入出荷情報の共有・車両平準化



# iKAZUCHI (雷) によるサブスク管理

## 複数サービスを直接利用している状態

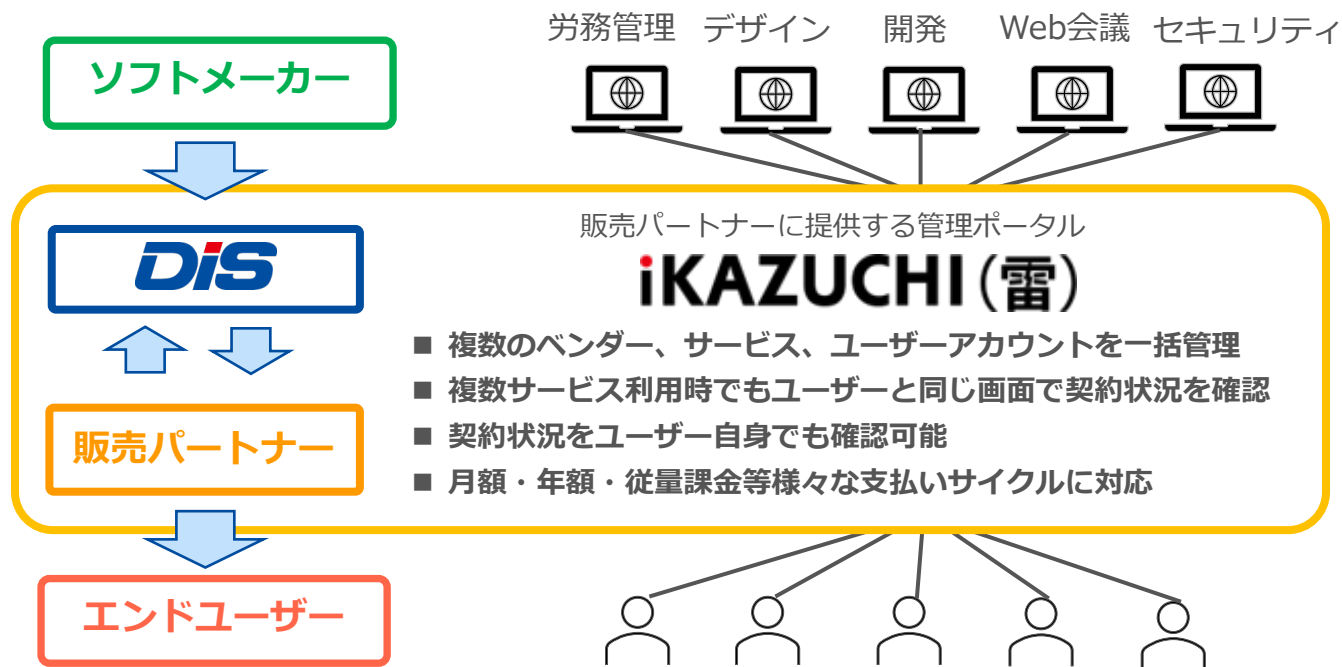
労務管理 デザイン 開発 Web会議 セキュリティ



新規契約・変更・解約、月額・年額・従量課金など

**契約管理が複雑化**

## iKAZUCHI (雷) とはサブスク管理プラットフォーム



## iKAZUCHI (雷) がもたらすネットワーク効果

サービス数、契約数、ユーザー数が増加するにつれ、利用価値が高まる

多  
サービスメニュー数

### iKAZUCHI (雷) 実績

143ベンダー / 279サービス

ユーザー社数 **11万社**以上

契約件数 **15.2万件**以上

(2025年9月末時点)

多  
契約数/ユーザー社数

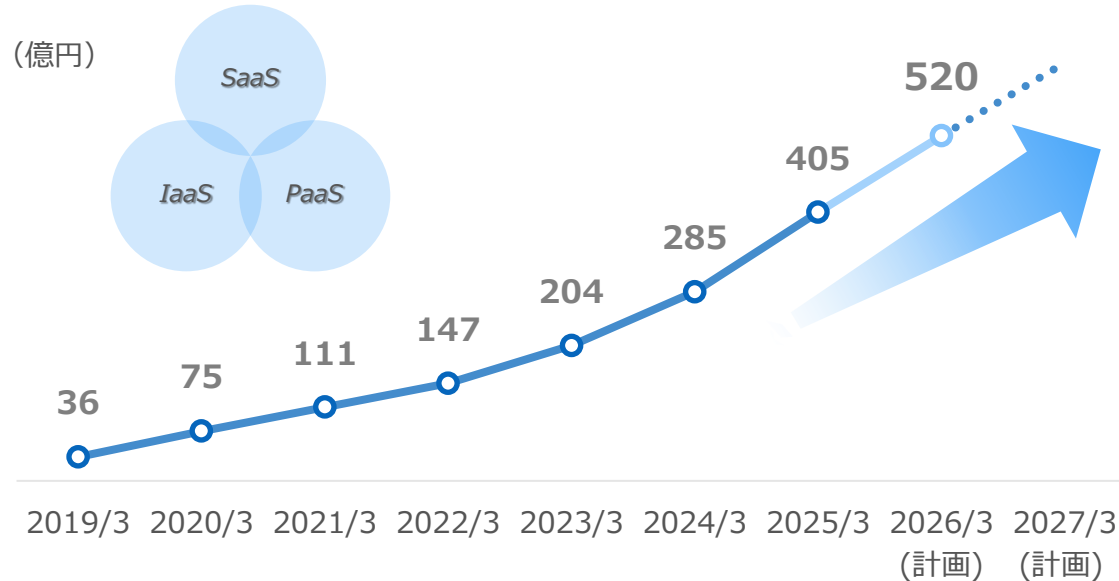
iKAZUCHI (雷) を利用することによって販売パートナーの利便性が向上するだけでなく、ユーザー社数が増えるほどベンダーにとってもiKAZUCHI (雷) にサービス掲載する価値が増加。さらにサービスメニューの増加はユーザーにとっても利用価値が高まる

# iKAZUCHI(雷)経由の販売目標と登録販売店数の推移

## iKAZUCHI(雷)取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」  
を通じた販売パートナーへの販売総額

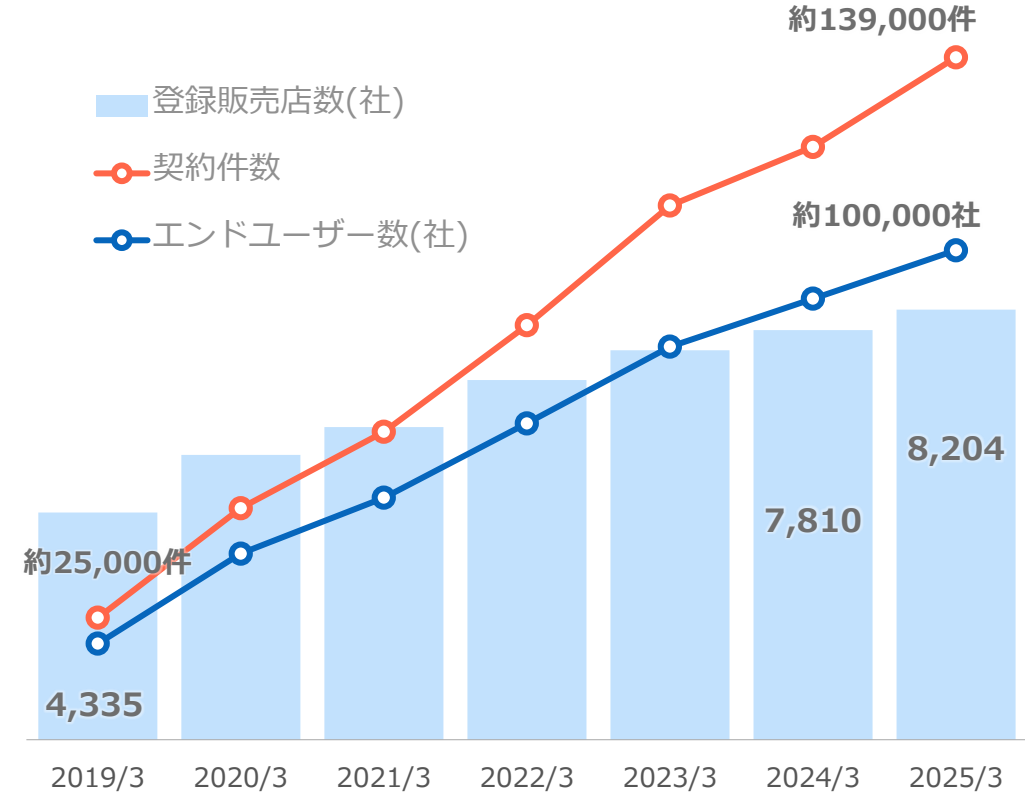
2024/3~2027/3 **CAGR30%以上**の成長を目指す



サブスクリプションビジネスの  
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化



## 登録販売店数の推移

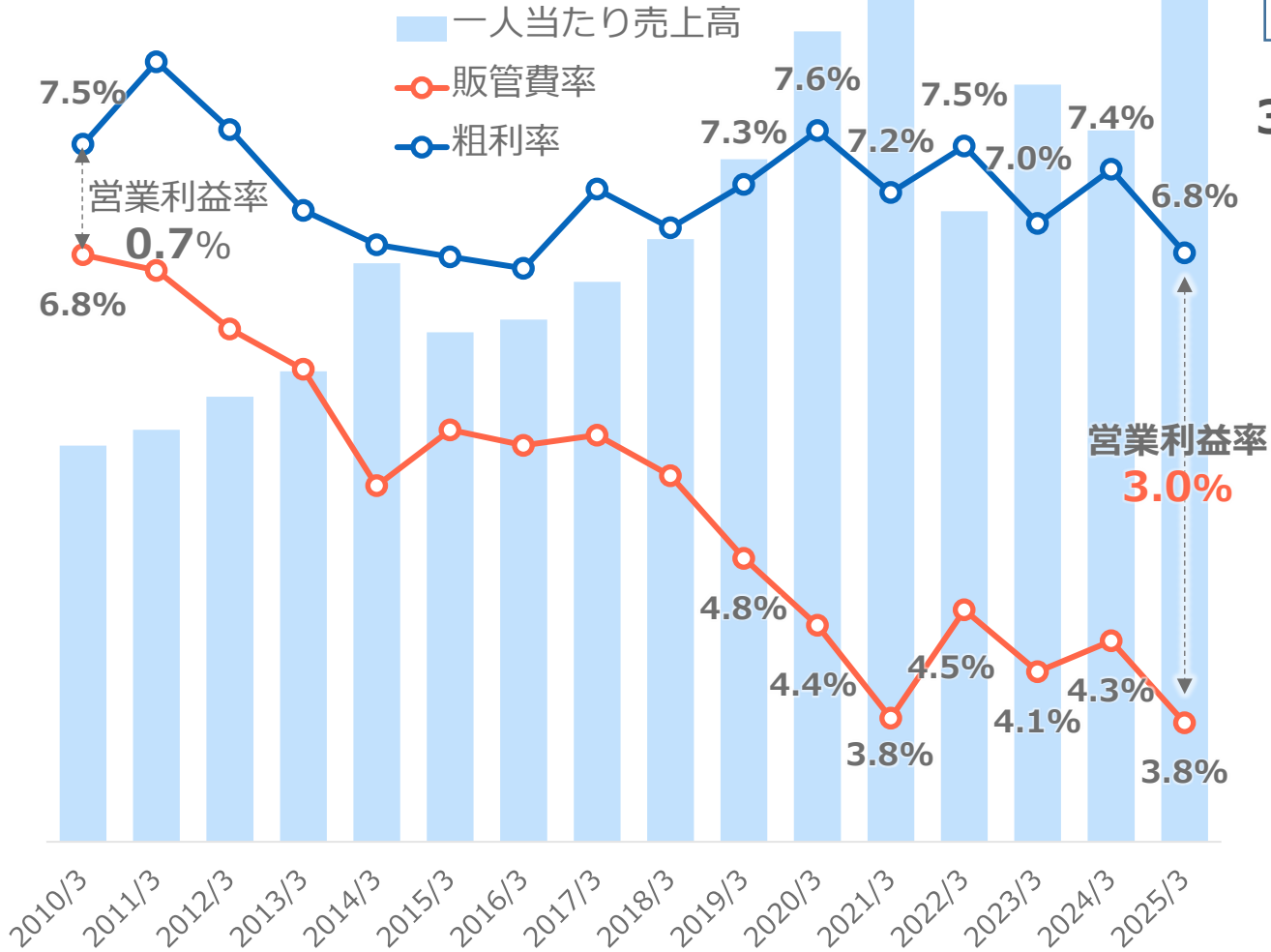


対応ベンダー数

24社 38社 65社 88社 115社 130社 137社  
(2025/3)

# 営業効率化とローコストオペレーション

ITインフラ流通事業 実績

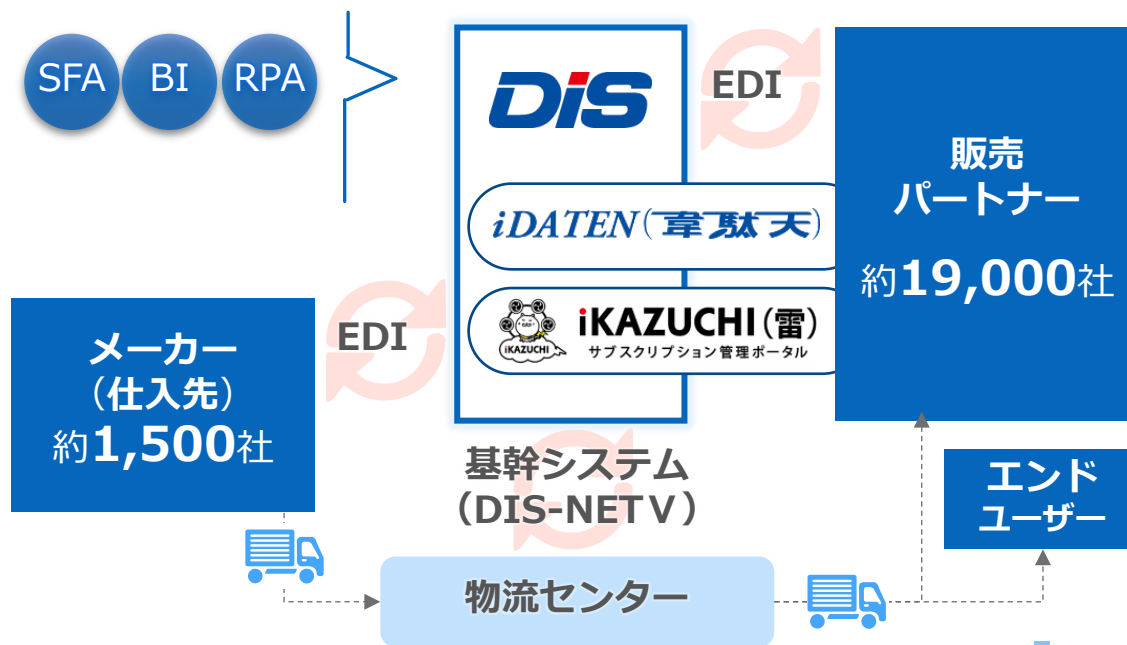


※連結調整を反映していませんのでセグメント実績とは異なります

## 1兆円を超える売上高を支えるシステム基盤の強化

### 3年間で以下の機能強化を実施

- 性能向上のため機器スペック増強、可用性改善
- 既存システムの移行、非互換プログラムの改修を含むマイグレーション
- 災害・障害・セキュリティ対策と運用管理改善・可用性向上
- 社内システム連携強化、自動化
- iDATEN（韋駄天）、iKAZUCHI（雷）、EDIなどの機能強化





## 立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,700**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

## 車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

## 自動機械



- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

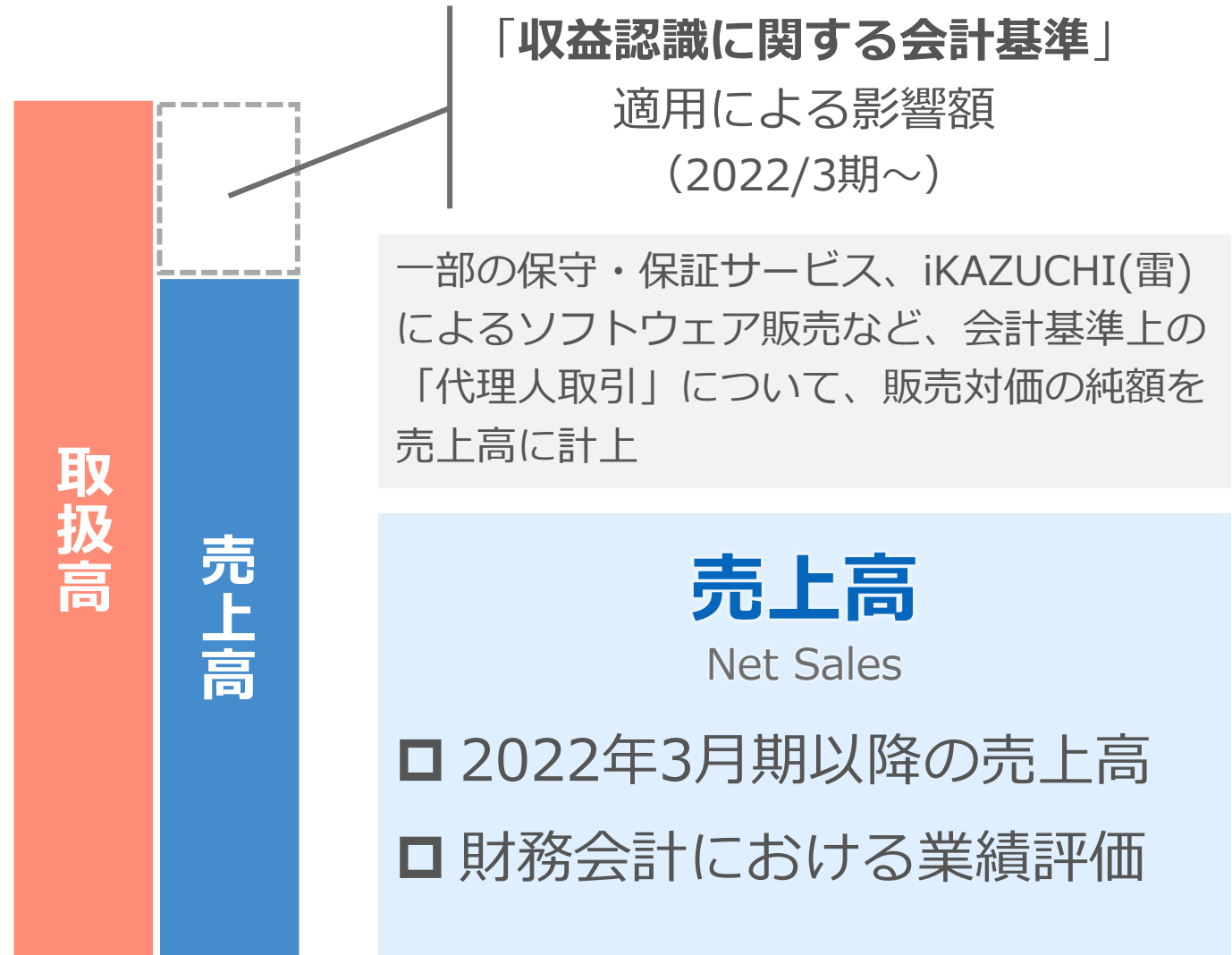
## 参考資料

- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ 事業概要
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 業績推移グラフ

## 取扱高

Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出  
(= 会計基準変更前の売上高)
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価



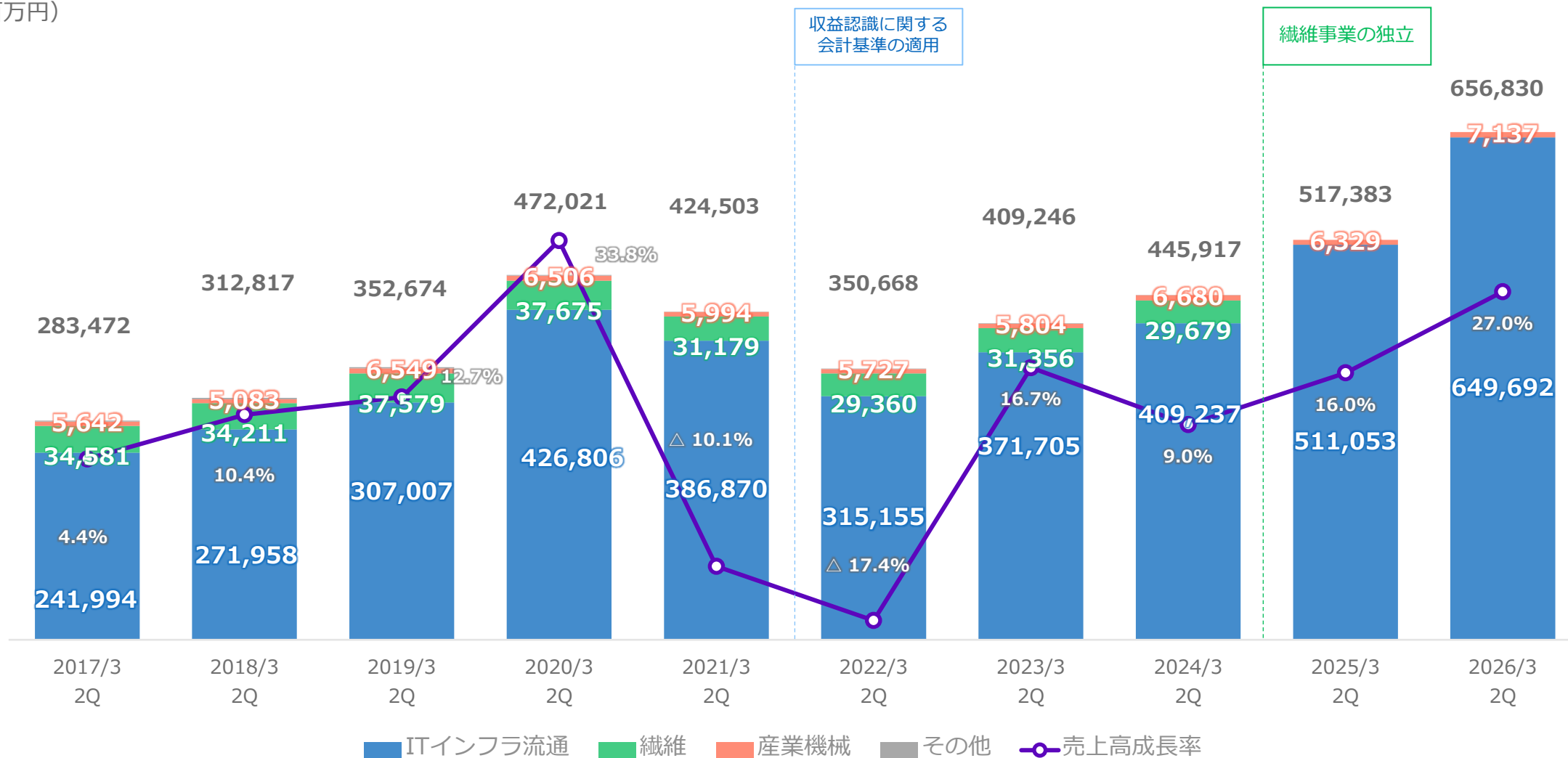
## 参考資料

- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ 事業概要
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 業績推移グラフ



# 連結売上高（第2四半期）

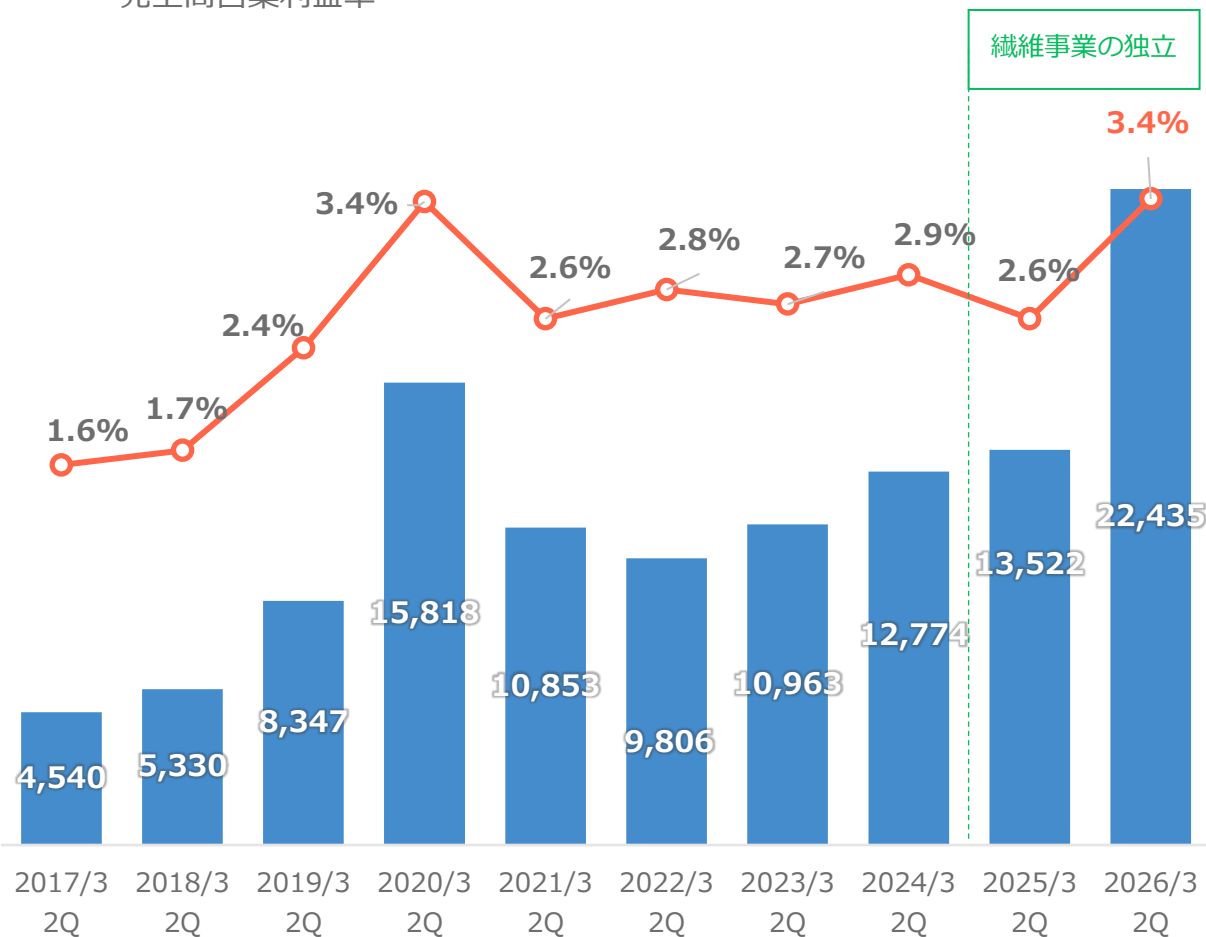
(百万円)



# 連結営業利益・経常利益・純利益（第2四半期）

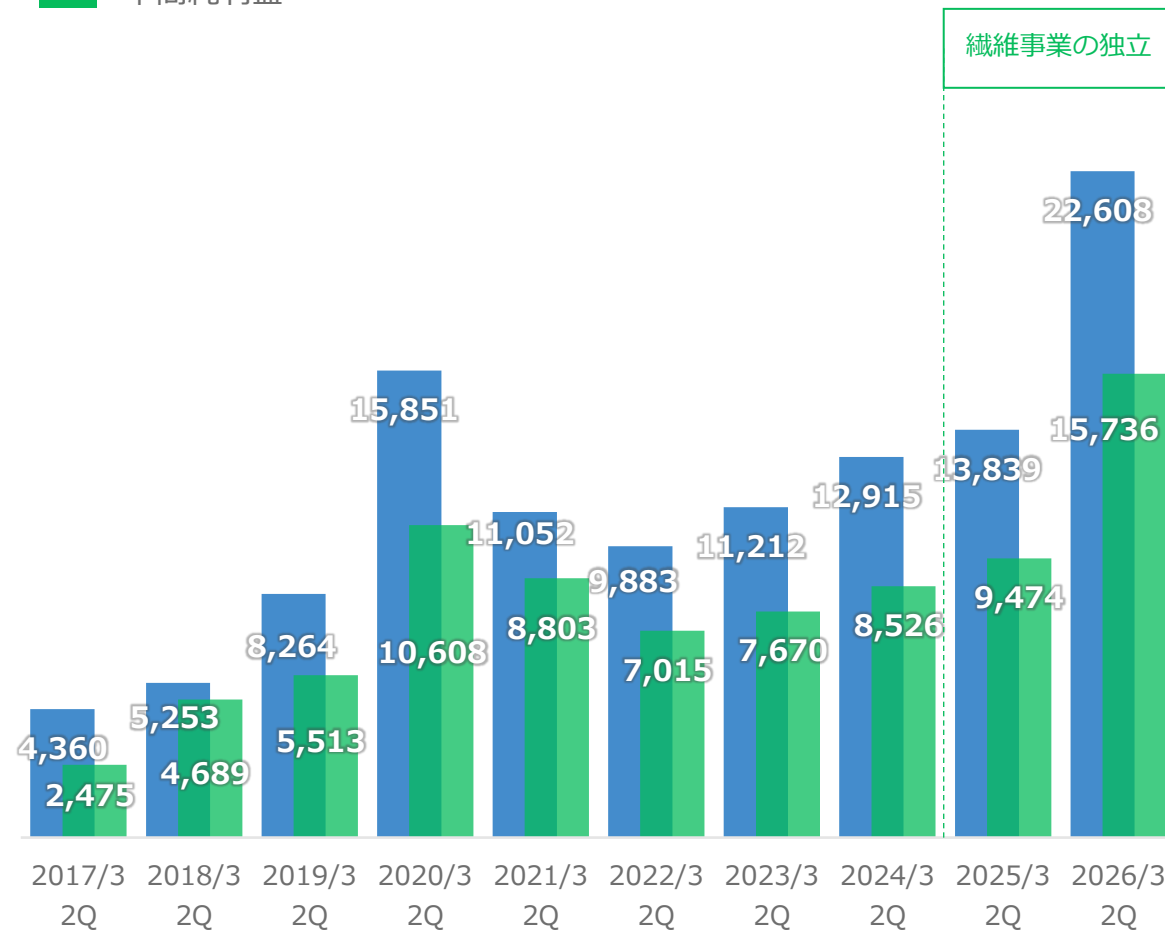
## 連結営業利益（百万円）

■ 営業利益  
■ 売上高営業利益率



## 連結経常利益・中間純利益（百万円）

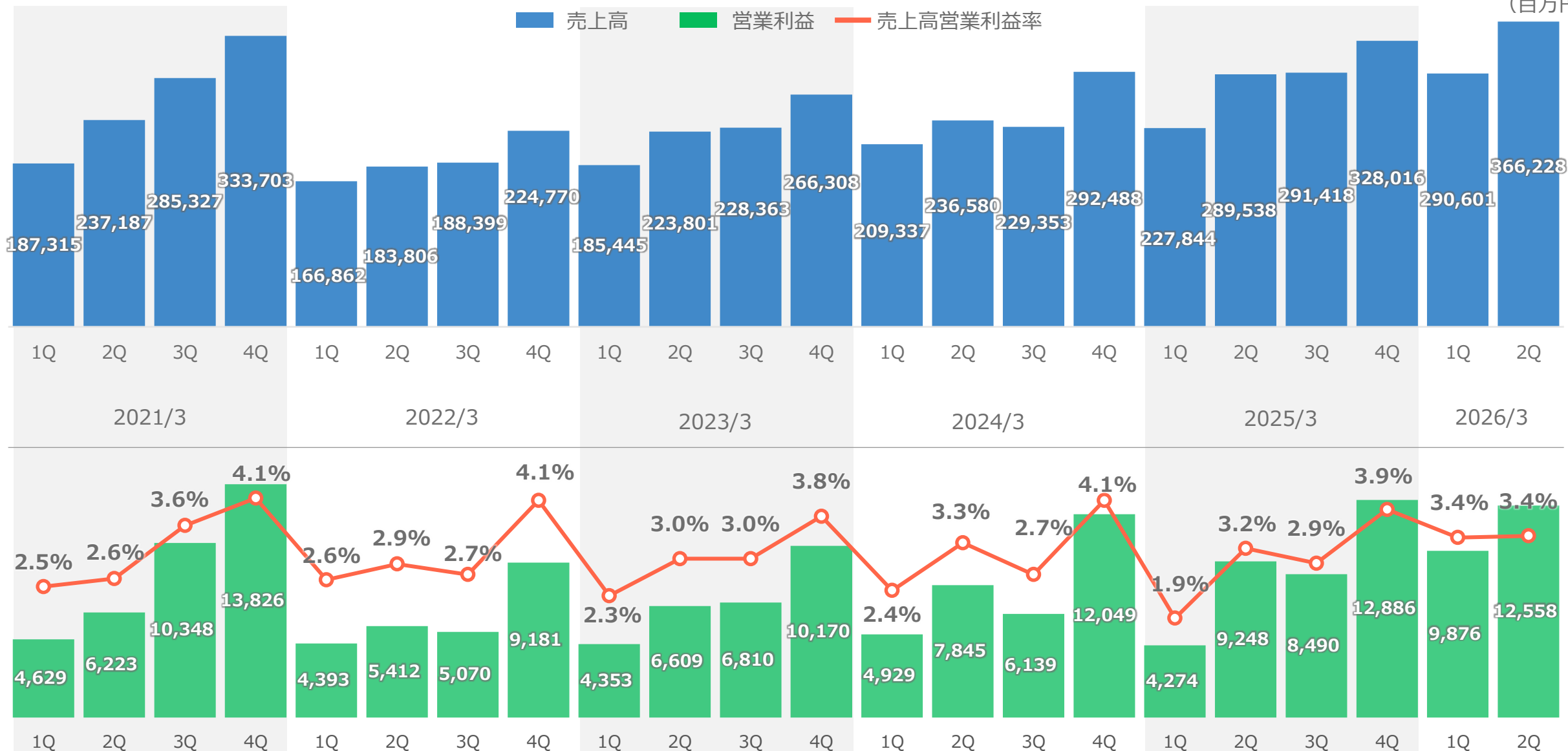
■ 経常利益  
■ 中間純利益



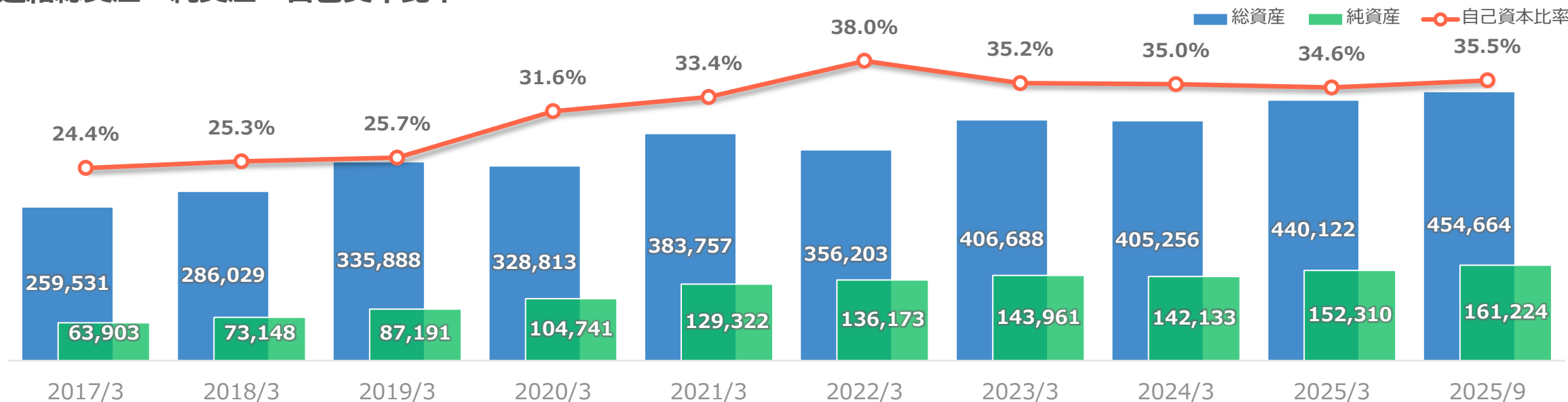
# 四半期別業績 推移



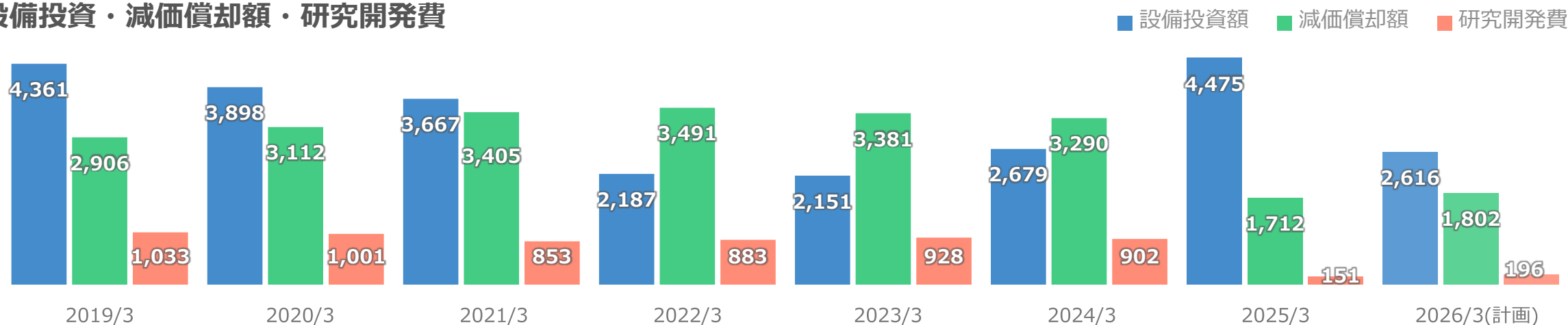
(百万円)



連結総資産・純資産・自己資本比率



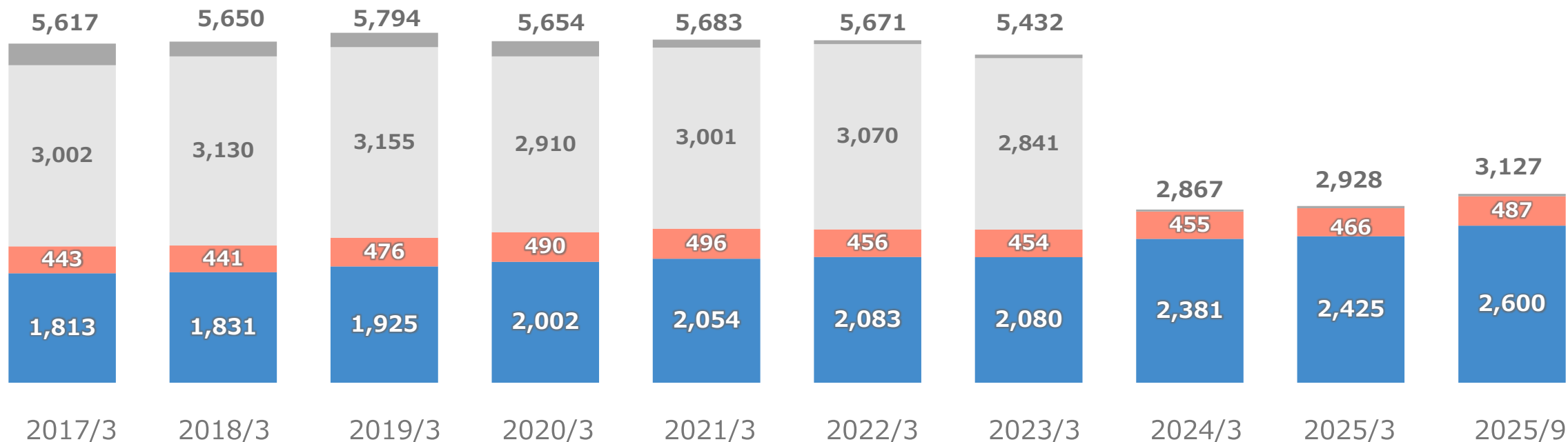
設備投資・減価償却額・研究開発費



# セグメント別 従業員数

(人)

■ ITインフラ流通 ■ 産業機械 ■ 繊維 ■ その他



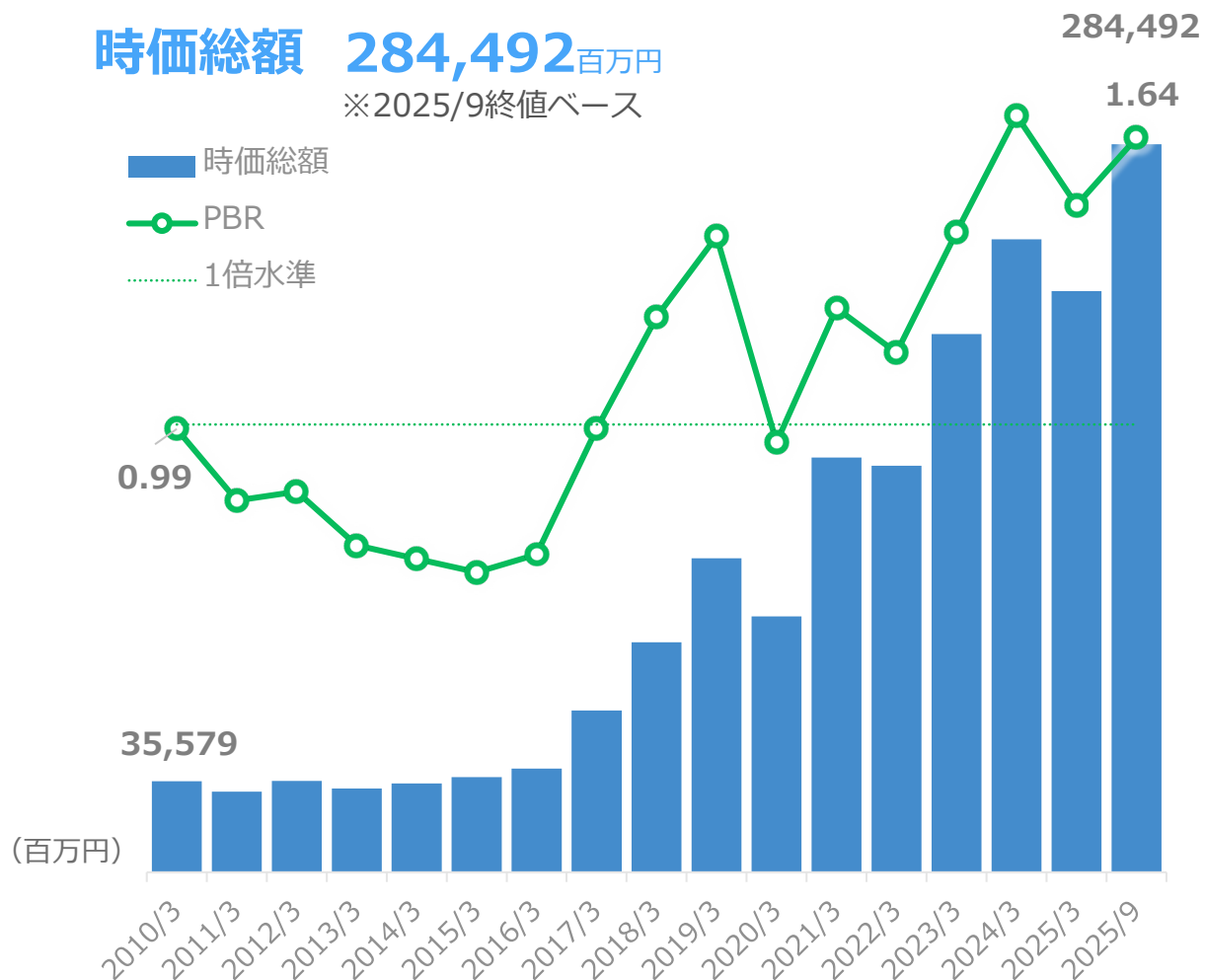
※各期間における最終日時点の人員数となります。

# 株価推移

**PBR** 1.64倍

**時価総額** 284,492百万円

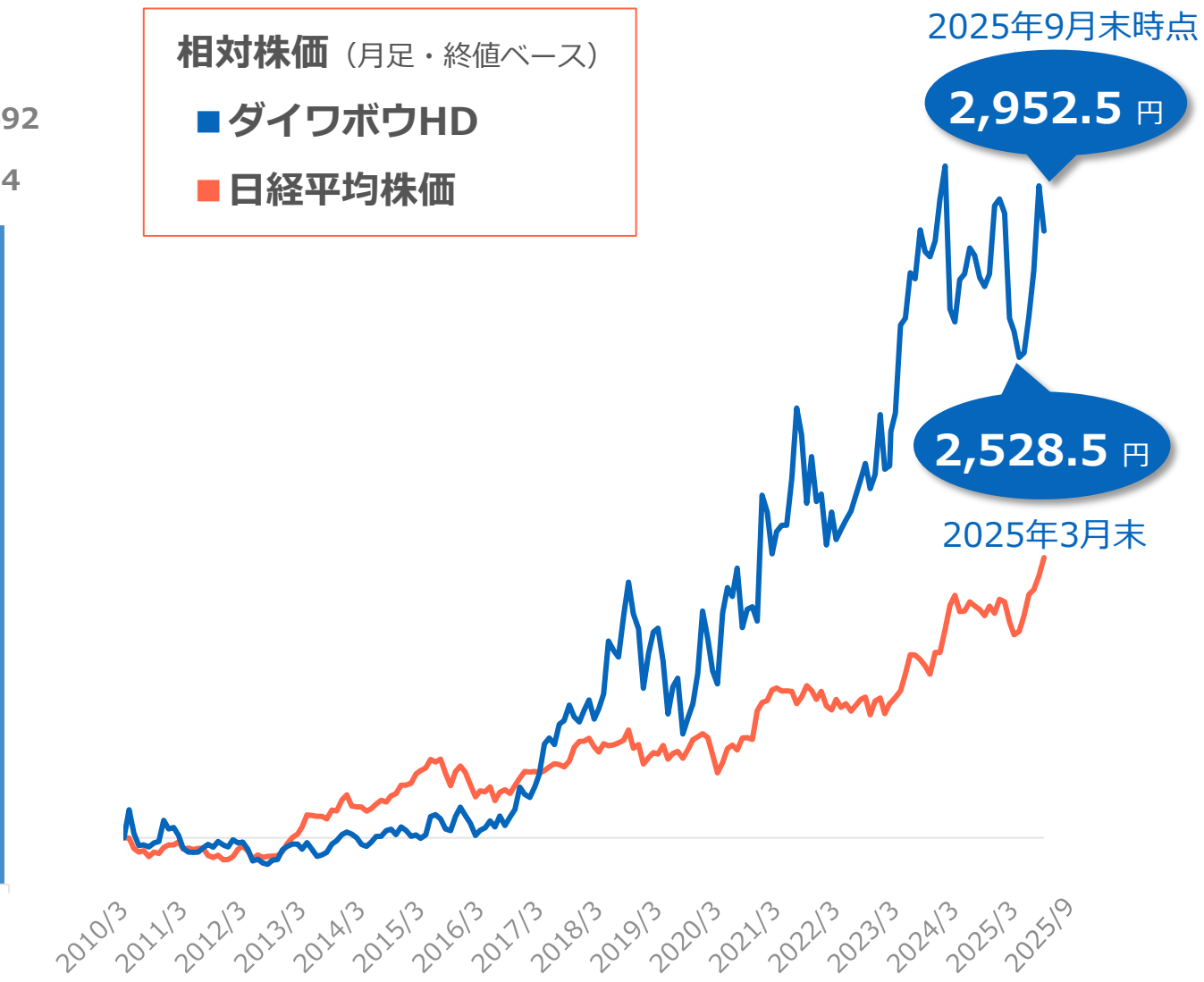
※2025/9終値ベース



**相対株価** (月足・終値ベース)

■ ダイワボウHD

■ 日経平均株価



※当社株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

# 「統合報告書2025」発行のお知らせ



9月22日に「統合報告書2025」を発行し、当社Webサイトで公開しました。

3年目となる2025年版では、当社グループの「ありたい姿」（パーパス・中長期ビジョン）を起点に、価値の連鎖（バリューチェーン）をより明確に表現しました。また価値の源泉である人的資本の重要性をストーリー化し、「なくてはならない企業」への進化についてご紹介しています。（表紙にもその意を込めました。）

ぜひ本報告書を通じて、当社グループの魅力・成長性・中長期的な価値創造への取り組みをご確認ください。

今後も、開示の充実とステークホルダーの皆様との対話を深めてまいります。



ダウンロード用QR

本社所在地	〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト	
設立日	大和紡績として創立 ダイワボウホールディングス設立	1941年4月1日 2009年7月1日
連結従業員数	2,928名（2025年3月末現在）	
資本金	216億9,674万4,900円	
株式	東証プライム市場 証券コード <b>3107</b> / 業種： <b>卸売業</b> <JPX日経インデックス400構成銘柄>	
事業内容	<b>ITインフラ流通事業</b> [中核会社]  <b>ダイワボウ情報システム株式会社</b>	コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	<b>産業機械事業</b> [中核会社]  <b>オーエム製作所</b>	工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業

※大和紡績株式会社は2024年3月27日に独立いたしました。  
(発行済株式の85%を株式会社アスパラントグループへ譲渡)





ダイワボウホールディングス株式会社

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ニュース

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html>

ダイワボウグループ一覧

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html>

沿革

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html>

## 【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。